

秋風のふきと吹きぬる

むさし野は

なべて草ばの

色かはりけり

秋ののに道もまどひぬ

松むしの

こゑするかたに

宿やあらまし



8

9

10

11

ボーイスカウトの歌

光の路

一、大空を渡る日の光は清く

心地よき輝きに闇はうせゆく

光の路を踏み行く我等

永久に保たん明るき心

二、偽りと忘りと卑しき慾も

打ちやぶり清むるは心の光

光の路を踏みゆく我等

永久に保たん明るき心

愉快なスカウト

一、朝日昇る愉快な愉快な

テントの外におどり出て

聲高らかに歌う聲は

愉快だ 愉快だ 愉快 愉快 愉快だ

愉快だ 愉快だ 愉快 愉快 愉快だ

二、それ集まれ愉快だ愉快だ

リョウソウの肩にいざやいざ

元氣をふれやよいたたん

愉快だ 愉快だ 愉快 愉快 愉快だ

愉快だ 愉快だ 愉快 愉快 愉快だ

常誦していたという。

世の中の煙草と人のよし悪は

煙となりて後にこそしれ

○影森用水の開さく

秩父郡影森村はその昔、武甲山下の一寒村で、八十餘の民家はありながら、井水は僅かに二箇所しかなかった。その井水も山間の溪流を引入れ設備不完全のため、旱天^{かんてん}涸水^{こすい}の際にも霖^{りん}溢^{えつ}水^{すい}の際にも、その不便はお話にならぬ始末であつた。

そして遂に口の悪い村童をして「嫁にいくなら影森およし米がないのに水がない」とうたわしめた次第である。村長關田宗次郎は村民の困難を救わんが爲め給水の改良に志し鋭意研究の上、村内三の輪谿^{りん}より流水の計畫をなし、私財をなげうつて之が工事に着手した。成功の後一戸毎に給水の便を得、村民は始めて蘇生^{そせい}の思ひをなした。明治三十五年十二月本縣知事は代の令孫に木杯一組を授け生前の功勞を追賞した。

○小谷三志と二宮金次郎

文政六年の春三十七才になる、二宮金次郎は領主

小田原侯大久保加賀守の命を承け、その分地である下野國櫻町の改革を斷行する爲、家族を伴つて櫻町の陣屋に着いた。非常な意氣込で豫て計畫した改良工作を行はうとせしが、次から次へと難問題が續出して幾度か匙を投げようとした。或年江戸へ往復の途中、武州鳩ヶ谷の近村を過ぎると、一人の老婆が破れた草鞋^{わらじ}を押戴いて何事か口の中につぶやいて、田の中へ投げ棄てるのを見た。

金次郎は不思議に思つてその譯を尋ねると老婆は、この草鞋は數日の間私の足を保護してくれたから、そのお禮を述べて捨てたのだと答えた。金次郎はその心掛けに感じ入り、それは誰がおまえさんに教えてくれたかと聞くと、それは鳩ヶ谷の三志さまの教えだという。それではその人に是非お目にかゝりたいと、途を聞いて鳩ヶ谷へ向つたことは、二宮夜話に、

我昔鳩ヶ谷驛を過ぎし時、同驛にて不二講の名高き三志とゆう者在れば尋ねしに、三志といひても誰も知る者なし、よく／＼問ひ尋ねしかばは横町の夫手習師匠の座兵衛のことなるべしといひしことありき。

とある。成程三志は手習師匠をやつてゐたのである。かくて金次郎は三志に逢つて、目下自分の惱んでゐる仕法仕事について教を請うた。三志はそれの時、二十歳の年長であつた。金次郎は三志の談に感心して、それから後も三志の居を訪うた。村氏に説教を聞かされた。かくて櫻町の仕法は天保二年に於て第一期がやつと完了した。最初から八年かゝつたのである。その成功は無論二官金次郎の功績であるが、三志も亦その成功の一部に與つてゐると思ふ。

○御法川翁と多條繰絲機の發明

縣下川口市の絹物工業は、その古く傳統から誰しも笠や端の製造工場位に思つてゐる。前神社佛閣に現る絹織をが太水金や手水針に、川口市物師の列銘がある所から、斯様なものも川口市製造したものである。たゞのつた次第であるが、今日の川口市は明治維新以來大なる發達を遂げて、現今は絹織類の製作が、金、銅金類の製造に二分位である。かくて本城類の製作中では、絹織

大書して紹介すべきは發明家御法川直三郎翁の遺業である。即ち御法川式多條繰絲機、特許燃焼機、特許ヨールヤシター等の製作が、川口市に於ける御法川工場及伊藤鑄工所下、盛んに製作されつゝあることは、工業都川口市に一大光彩を放つものである。就中御法川翁の考案した、無切斷直繰式多條繰絲機は、翁がその製作考案に没頭すること實に四十年を要して完成したもので、この發明によつて生産された「ミノリカワシルク」が世界生糸市場に於て最優良の品質なることが確認され、絹業界から非常な賞讃を受けた次第である。昭和三年十一月國產振興功勞者として勅誥の褒章を賜り、空前の大發明を遺して昭和五年九月十一日老病で長逝したが、日々生前の功を以て正六位追贈の恩命を拜記で居る。

○阿久津川關と相模體操

東京本場所大相撲の、小結阿久津川高次郎氏は、宇都宮市の出身で明治十年の生れである。大正三年十八才で鶴山關下で、大正九年二十三才で入道。大正十一年二十五才で小結に昇進した。手

取力士で人氣を集中したが、昭和四年五月三十二才で引退したのである。同氏は大正十二年九月一日の大震災に遭遇して川口へ移住したのであるが當時川口的好角家は氏のために後援會を組織して氏を激勵し相撲道に精進せしめたのであつた。

氏は相撲界稀に見る明敏な頭腦の持主で、相撲四十八手を應用した體操術を考案し、第十一種の運動を創始して、全國小學校に普及した。昭和二年以來川口市に少年相撲を催し大に體育事業に貢獻する所があつた。

○寶珠花村の大風

風の寶珠花として世界的ならしめた。その大風の起源について調べて見るとさう古くない。何んでも明治三十年代からの事である。元來あの地方では子供が出来ると風を揚げる習慣があつたが、それを一纏ひとまとめにして大風を上げるようになったとゆう。今では縦八間、横六間半、西の内二千五百枚張り、重量二百貫とゆう素晴らしい大きなものを造るようになった。しかもその大風二枚を造つて端午たんごの節句に飛揚する日本隨一の大風であり世界的なもので、たしかに埼玉名物の一つである。

我が國の氣壓

我が國の氣壓は一、二月の嚴寒の時に最も高く、暖かくて濕氣に富む六、七月の頃は最も低い。

世界語の必要

世界各國の交渉繁多となるに伴ひ、各種の言語を使用することの不便を、痛感してきた。

いづれの國にも屬しない世界語を、使用せんとする傾向が盛んとなつて來た。ポーランドの、ザンメンホッフ博士の創案になる 에스페ランド語は、その一つの現はれである。

○寄居新名勝玉淀

縣下大里郡寄居町は秩父鐵道と東武鐵道東上線の接續地である。加ふるに最近八高線の通過によつて、武藏野の交通要路たる位置を占むるに至つた。同町有志は町將來の發展を考慮し、荒川沿岸の雜木林を伐り拂ひ、正喜橋を中心に約三十丁の遊覽道路を開き、之れに櫻並木を仕立て自然の風光に一段の雅致を發揮せしめ、前面秩父の翠山を背景として、天然の要害たりし鉢形城趾の岩壁を望み、荒川の碧潭に面し眺望頗る絶佳、加うるに象ヶ鼻の奇岩、宗像三神を祈る神社、靈跡藤田の聖天等古來有名なものがある。まことに清遊好適の一大勝區を成す。

この新勝地の命名に就て本縣史跡名勝天然記念物調査會委員塩谷俊太郎氏肝煎となり、同會長たる松平本縣學務部長に懇請の結果松平會長は同所を玉淀と命名された。町民一同大いに喜び昭和六年四月二十九日天長の佳節をとし命名披露祝賀會を催し、左の宣傳ビラを配布した。

寄 居 名 所 が

天皇誕生日のよき日に

命名されました

玉 淀 と

○玉 淀 の 四 季

春、花吹雪散る花びらのおもしろく

うかび流るゝたまよどのほら

夏、山水の流れもきよきあらかはに

あゆの香たかし夏のたまよど

秋、なくむしの聲は流れて涼風に

日てり渡るたまよどのあき

冬、見渡せば鉢形あたり常盤木の

いろまさり行く冬のたまよど

○獨木舟の發見

本縣で獨木舟が發見されたのは、私の知つてゐるのは昭和五年一月に北足立郡新田村大字長右衛門新田で、綾瀬川改修の際一の獨木舟が發掘された。それから八年の三月に同郡伊奈村太字小室字中島から水田の改修工事中地下六尺の所から古代の獨木舟一隻を發掘した。

双方とも舊綾瀬川流域である。又昭和十三年六月には北足立郡戸田村のポート・ユース施設工事中、同村大字本村の荒川敷の地表二米下から一隻の獨木舟が發掘された。長さ十五尺、幅一尺九寸高一尺二寸、厚三寸、構造は丸木を焼いて剔つた丈で、あまり手をかけて居ない。この獨木舟は綾瀬川で發見されたものよりも古く極めて原始的なもので、恐らくは古墳時代の始め頃のものとして推定された。

○二千年間古墳内に埋藏された

木の種子が發芽

昭和十四年一月兒玉郡東兒玉村下十條の古墳内

から發見された木の種子を、秩父郡の山岳家清水大典氏が東京帝大附屬植物園に送つて、松崎主任が溫室で發芽させたとところ立派な鳳凰木として發育した。之は西印度マダガスカル地方に存在する木の種子であるが、二千年も前に何等かの關係でこゝに來たものと思はれる。この例は前年横濱市日吉臺の古墳を慶應大學で發掘した時、廊中から出た杉の木の子が同じく發芽して居り、木の種子の壽命が頗る永いのに驚かざるを得ない。

○平賀源内と秩父地方

近世文明の先覺として大天才と稱揚された平賀源内の業績中忘れてはならないことは秩父地方である。

源内の發明である石綿を原料とした火布を始め戯曲神靈矢口の渡の戯作も、又晩年の大活動であつた、秩父の採鑛事業や荒川通船のことや、炭焼事業等、いづれも秩父地方で行はれた大事業であつた。

源内が秩父に足を運んだ最初は明治元年の初春であつた。

(を は り)

善 惡 夢 判 斷

昔し周の文王は夢によつて太公望といふ軍師を得ました。

又漢の丁公と云ふ人は腸に松生じると夢みて三公といふ位に進み、唐の李白といふ人は筆頭に花吹くといふ夢をみて詩人の名人となりましたそうです？。日本でも日輪懷中に入ると夢を見て豊臣秀吉を産みました。之みな夢の印であります？

今古人の考へた夢占ひの中からより出し、解しやすい例を下に記しませう。

吉 の 部

○天に昇ると見れば大いに立身すべし ○雷に打たるとみれば大いによし ○雪降ると見れば慶事有、縁談などによし ○山に登ると見れば大いによし ○海を渡ると見れば大いによし ○貴人の前に出づるとみれば大吉なり ○斬られると見れば大吉なり ○賊難に遇ふと見れば吉凶事を去るの兆なり ○魚肉を食ふと見れば萬事安泰なり ○書を見るとみれば吉なり ○貧に迷ふと見れば吉、遠方より便あり ○人にののしられるとみれば吉、願望達すべし ○我刑にあひ鞭打たるゝとみれば吉 ○夜明けると見れば大吉、一家を起すべし ○頭痛すると見れば出世すべし ○泣くとみれば吉事あり ○山に入りて迷ふとみれば吉、勉學によし ○火難に遇ひて我家焼くるとみれば金銀財貨を得べし

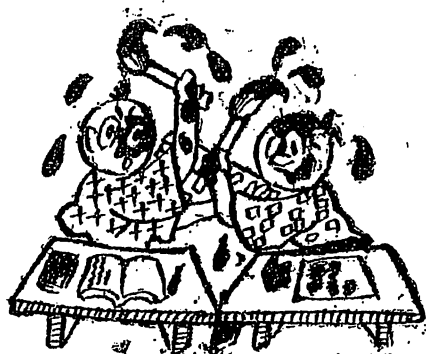
凶 の 部

○天暗しとみれば大凶、病氣危し ○雲起るとみるは凶、親族朋友と不和を生ず ○地震ありとみれば訴訟口論あり ○人に物を送ると見れば凶、病氣危し ○子生れると見れば女は病を生ず、男は外出を禁ず ○汗出づると見ればわるし ○梨を食すると見れば、夫婦離別すべし ○壘の上にありがはふと見れば悪し ○眉を剃るとみれば病氣悪し、女なれば苦勞を生ず ○灸をすへると見れば凶不時の災難あり ○餅を焼くとみるは凶、相談事約束事破るべし ○金子を拾ふと見れば凶、かへつて損失あり あかを洗ひ落すと見れば凶、諸事注意すべし ○齒抜けると見れば凶愁事あり ○目つぶれると見れば子に離れ、家運傾く ○羽織を着するとみるは凶、色情にて迷ふ事あり。

江戸時代の地方学校と

生徒　こころえ

浮城生



江戸時代の學校は今と同様官公立や私立がありました。もちろん官公立は極めて

少なく、大多數は私立であります。官立とも見るべきは、各藩に藩學がありまして其處では主として藩臣の子弟を教育したのであります。

即ち川越の藩學の長善館、忍藩學の進修館、岩槻藩學の遷喬館等で、是等藩學では和漢の學問はもちろん、弓馬槍劍等儒員や師範が置かれて、藩主は文武兩道を奨励したのであります。是等藩學で幕末にその名を知られた、いわゆる校長格の儒者は川越では石井擇所、忍では芳川波山、岩槻では兒玉南柯の諸先生でありました。また公立に準

するものとしては、久喜の遷善館で享和三年三月幕府の代官早川八郎右衛門公紀の創設したもので今から百四十年前のことであります。遷善館は租税をめんぜられ、扶持米二人を受け館費に充て、儒員には其の頃江戸で博學多聞の名のあつた龜田鵬齋及びその子の綾瀬、太田錦城、久保筑水等が招かれて教鞭を取り、藩學の様に藩臣に限らず持志者の入學を許していた。

その他は漢學塾や寺小屋で、この種の民間教育は各町村に多數散在していた。これらの寺子屋は讀書、算、筆等を教えるしごく簡易なもので、一和尚や神主または浪人等が先生であつた。その中で岩槻の兒玉南柯先生が、岩槻城下に設けた村民教諭所が最も特色あるので、南柯先生自ら所長と

なつて、藩學の傍ら親切に村民を教えたのであり
ますがその教諭所の生徒心得を拔萃して示せば、
左の通りであります。

おきて (男子の部)

- 一、師匠と父母の申付を守るべき事
- 一、禮儀を重んじ行儀を正しくする事
- 一、明輩同志互に睦^{むつ}じくすべき事
- 一、喧嘩口論を成すべからざる事
- 一、食物金錢を所持すべからざる事
- 一、途中にて高聲惡戯すべからざる事

右條は^{さつとかいまもらべく}屹度可相守背く者は七つ(十六時)

迄可^{さつと}留置一候事、

おきて (女子の部)

- 一、かおのよしあし
- 一、家のくらしむき
- 一、男子のちわさ
- 一、たちぎき
- 一、中ぐち
- 一、つげうち
- 一、着もののよしあし
- 一、高わらい
- 一、たちぐい

右の條は決してなすべからず背く者は七
つ(十六時)まで、とめおかるべき事、

過ぎし日のふるさとには美しくかりしか

傳説化した古歌の武藏野

浮

城

生

我

が武藏野の大平原が開墾せられ、大小の池や、沼が、埋められ、自然の流れであつた河川が改修されて、茅野や荻原であつた所に、何時しか村落が出来、沼澤や、濕地は、美しくしき田と化して、そこに立派な水郷がはじまり。今は古へのおもかげをしのぶべくもない。

我が武藏野が果しも知られぬ草原であつたことは、たしかに文献の證明する所であるが、上代の武藏野が夢の如く消え去つて、そこに現代文化が遺憾なく築かれつゝある。かくて武藏野固有の野草も、次第に枯れ失せて遂には其の種類が絶滅してしまふものもすくなくない。

今は貴重な天然紀念物として保護保存につとめ

ねばならぬものすらある。

自然と文明とが著しく遠ざかり行く現代に於て、かつては紫の里と推賞された、武藏野の自然美も今は次第に失せてすべては人工的に變化しつゝある状態である。

如斯して奈良、平安の歌人等が、のこした武藏野の和歌も最早一種の傳説化したと云ふも過言ではあるまい。

さて古への武藏野を味ふ一文獻として、もつとも有力なものに平氏康の武藏野記行がある。その一節を記せば左の通りである。

天文十五年仲秋の頃武藏野を見んとて此歲月思ひたちぬる事なれば人々數多打連れ、小鷹狩り

して遊ばんとて皆々狩の装束して馬に打乗り、
 (中略)武藏野を狩り行くに洵^{まこと}に行けどもはてし
 のあらばこそ、萩、すみき、女郎花^{おみなえし}の露にやど
 れる聲々あわれを催すばかりなり。

武藏野と、いづこをさして分け入らん

行くもかへるも、はてしなれば

古への草のゆかりの色も、なつかしければなり
 これも紫のひととゆゑなるべし。

隔^{へだ}つなよ、わが世の中の、人なれば

知るも知らぬも、草のひとつと

以上氏康の記行は天文十五年とあるから、今より
 約四百年ばかり前のことで、比較的近世のことと
 ある。併しこの記行で現代よりも武藏野らしい情
 趣を味ふことが出来よう。

それより數百年昔の武藏野は一層草しげき、は
 てしもない大平原であつたことは勿論の事と思は
 れる。

我が武藏野を詠んだ古歌としては萬葉集に載せ
 た短歌の内武藏國歌として武藏野の「うけらか花」
 を詠んだものが三首ある。勿論讀人不知とある。

戀しくば袖もふらんを武藏野の

うけらが花の色にいづなゆめ
 如何にしてこいはかいもに武藏野の

うけらが花の色にてすあらん
 我背子をあとかもいはん武藏野の

うけらが花の時なきものを
 また夫木集^{よはくしう}に清輔^{きよすけ}の詠みし歌として

紫の色には咲くな武藏野の

草のゆかりと人もこそ知れ

武藏野の野中を分けて摘み初めり

若むらさきの色はかきりか

武藏野に生ふとし聞けばおらさきの

其の色ならぬ草もむつまじ

春もまた色にはいですむさしのや

若紫のゆきのしたくき

武藏野の若紫のすりごろも

忍ぶのみだれかぎりしられず

かこつべき人もなき世に武藏野の

若紫を何にゆづらむ

武藏野を分け來し駒のいくかへり

今はむらさきの庭に出づらむ

武藏野に生ふ數ある草の中に古來人に詠まれたる

野草をかぞうれば、尾花、さばらび、おみなへし
萩すみれ、野菊、ふじばかま等いろ／＼である。

中でもすみれ、野菊、ふじばかまは我が武藏野
を紫化したその代表的なものであらう。
すみれについては左の四首がある。

紫のゆかりと見えて武藏野の

すみれは色にあらはれにけり

その色は匂はぬ草もむつまじき

武藏野に咲くつばすみれかな

武藏野のうけらが花のをのづから

ひらくるときも無き心かな

武藏野のうけらが花のいつとなく

咲きみだれたるこひもするかな

とある。萬葉集は總べて二十卷で、之に載せた歌
は長歌二百六十首、短歌四千百七十三首、旋頭歌
六十一首。合計四千四百九十六首で、年代は第十
六代仁德天皇から第四十七代淳仁天皇の天平、寶
○三年迄約四百五十年間の歌集で、我武藏國歌は
少くとも今より一千百八十年以前によまれたもの
で、うけらの花は武藏野の野草として早くから世
に知られたものである。

北足立郡、大和町大字上新倉字原新田に本年の
三月縣史跡に指定された。武藏野うけら庵趾があ
る。庵趾の附近はうけら野と稱し、武藏野の一部
で、おびたゞしくうけらが自生したところであつ
て川越街道に沿ふ所として江戸の文人墨客がこのう
けら庵を訪れたので、江戸文學の遺跡として有名
である。

當時の、うけら庵松蔭は新倉村の村長で同所の
舊家現鈴木家の數代前の當主であつた。要するに
武藏野は奈良平安の歌人により美化されて、武藏
野のむらさぎの里とか、武藏野の若むらさきとか
よまれてゐるがそれは、たしかに平安以後のこと
で武藏野のゆかりの色として當代の歌人が我が武
藏野を紫色の美しいものに化した。その歌は次の
通りである。

武藏野や草のゆかりの色ながら

人に知られず咲くすみれかな

また野菊に付ては紫の一もとゝしてよまれたもの
は左の通り

紫の一もと故にむさし野の

草も見ながらあはれとぞ見る

紫のひとつもとまきくに萬世を

武藏野にこそ頼むへらなれ

また、藤はかまについて、武藏野のゆかりの色としてよまれたものは左の通りである。

藤はかま咲きぬるときは武藏野の

若むらさきの色に見えけり

武藏野の草のゆかりに藤はかま

若むらさきに染めてにはへる

うけらは求と書く、藤はかまと共に菊科に属する植物で、求は林中に多く藤はかまは河邊や土堤等に多く生える。求、野菊、藤はかまはおびたどしく生える野草である。

目 己 完 成 え

今日日本の人々が心の中から希つてゐる氣持ちはなんなんぞでしようか。生活がもつと豊かになりたがふやうなことでしよう。明るい生活、楽しい生活、晴々とした生活。みんながそれを希望してゐる。こんな世相が暗いといふのはどうしてでしょう。それ、本當にも互の幸福のために互の手による。互の龍念が建設されてゐないからである。

また、一部少數のものの力が多くの人々の意志に反するような働きをしてゐるからです。「正直者が損をし」「善良な人が馬鹿を見る」ような社會相の影には、わずかの人達の暴力にも等しい不法な力が動き、多くの人々はこれらの人々の横行を許してゐるからです。私達はこの不法を本當になくして正しい平和と文化をもつ國家を作り上げなければなりません。それには私達が「深く考えること」「正しくものを見ること」がもつとも大切でこの知性の上に立つた大きな愛の實踐の爲には、いままでもよりも、もつと強い人間にならなければなりません。平和を建設する人々は戦争に向う兵士よりももつと大きな責任が負はされ破邪顯正の逞ましい勇氣を養はなければなりません。それはもちろん自分自身の心の葛藤の中において。

(栗 原)

子の親を選ぶ三つの權利

- 一、よく生んで貰う權利
- 一、よく養育して貰う權利
- 一、よく教育して貰う權利

埼玉郷土史講座

郷土の史蹟遺物

埼玉縣史編纂主事

稻村垣元



一、石器時代

吾等が生れて育つた埼玉縣はどんな郷土か。この郷土にはどんな史蹟名勝や、國寶重要美術品等の記念物が遺つて居るか。これから歴史の時代順に従つて述べて見よう。

之には先づ皆さんは埼玉縣教育會で昭和十六年六月に發行した青年學校用埼玉郷土讀本を一讀して頂きたい。すなわち之から述べるのはその内容の第三、郷土の歴史に當る部分である。

地球上に人類が生息し初め

それは百萬年も前と云はれてゐる。左様な遠い昔のことは今の本縣郷土史では考へられる史蹟は無いが、少くとも四五千年前には吾が埼玉の土地は現在とは大分異つた様子をして居た。その當時では現在の東京灣はもつと北東の方に灣入して居て北葛飾、南埼玉、北足立、入間郡の大半は海底であり、海岸線は遠く川越南方の鶴瀬村から大宮市、蓮田町、寶珠花村へかけての邊りにあつた。

この當時の海岸には住民の遺した貝塚なるものがあるので、現在その貝塚のある所を調べると大體前述のような所迄海岸線が及んで居たことが知られる。貝塚とは住民が海中の貝類を採つて食し其の貝殻を捨てた場所、その中には日常使用した食器の破片や、または食用にした鳥獸の骨等も含まれて居る。貝塚の内でも入間郡鶴瀬の貝塚や水子の貝塚からは當時の住民の住居した跡が発見され、北足立郡新都貝塚(現川口市)や蓮田町の綾瀬貝塚からは死んで埋葬された人骨が澤山出て居る。北葛飾郡寶珠花村親野井貝塚からは鹿、猪の

角、骨、魚類の骨と共に色々の器物が出て居り、南埼玉郡柏崎村眞福寺貝塚からは土人形や、極めて精巧に出来た土器や装身具も出て居る。

この當時の人々は未だ金屬類を知らず、あらゆる日常用品は石や獸骨、角で造つて居たのでこの時代を石器時代と呼んで居り、食物を調理する石皿に台石、物を切る石斧、鳥獸を捕る石簇、石鎗きそう杵や槌の用途をした石棒、獨鈷石どくこ等がある。鍋釜類は全部土器で之に表面に色々の模様を付けて居るが縄や蕤カゴの紋様をつけたのを縄文式土器といひ、主にアイヌ人の用ひたものであり、直線模様や刷毛目、鋸齒の紋様をつけたものを彌生式土器といひ、大和民族の祖先の作つたものと考へられて居る。従つて石器の造り方にもアイヌ人と大和民族とはその形狀を異にして居るが、關東地方の石器時代にはアイヌの遺品が極めて多く、大和民族の生彌式は比較的少ない。

住居をして居た住居跡も土の上に平たい石を敷き並べて其の眞中に爐を作り火を焚いて居たことが分り其の平面形はアイヌ人は多く圓形に、大和民族は大概方形の住居を造り、周圍に柱を掘立て

にして、上には草やカヤで圓錐形または方錐形、或は兩面流しの屋根を葺いたらしい。かゝる住居跡は本縣では今までに入間郡高麗村臺、同郡高萩村女影、同郡鶴瀬村水子、北足立郡大久保村上峰等に完全に見られ、其他にも澤山ある筈だが、大抵地表下二尺か三尺の所にあるから道路工事が、開墾作業の折で無くては見出すことが少ない。



住居跡の炉

この當時の住家は建築は簡單であり、必ずしも一戸の内に親子引續いて住んだのでは無い。親が死ぬと其の死骸は住宅と共にその儘火葬にして貝殻等にて隠蔽し、子供等は近くの別の所に住居を新造して移り住む。その爲めに前の住居

跡は自然に貝塚となつてしまふ。北足立郡川口市新郷の貝塚からは四五尺の貝層の下に住居跡があり、そこに人骨が四人分ほど横臥^{おうが}して完全に出て來て居る。之はアイヌの習俗であるといはれる。

石器時代の海岸線で面白いものは北埼玉郡須影村から志多見村・禮羽村・加須村にかけて畑の中に一大砂丘と松林の長く連つて居るのが見られる。その景色は恰も海岸に於ける砂丘を見る如くで、此の砂山は往昔の東京灣の海岸線の名残りである。奈良時代に至つても埼玉の入江と云はれた東京灣の北端は實に此の北埼玉迄も入り込んで居たことが知られる。大體にはアイヌ民族が關東地方一面に住んで居たのを大和民族が西方から漸次東へ進んで來たので、アイヌ人は東北方に追ひ込まれて行つたと考へられ、遺跡の上から見ても大體縄文式土器の上方部に彌生式土器が散布して居る。

また所によつては縄文式許り出て彌生式の見えない所もあり、縄文式と彌生式遺物とが同一位置から出で居て、アイヌと大和民族との混合居住して居たと思はるゝものもある。

二、古墳時代

かゝる未開な石器時代にも支那大陸からの交通があつて彼地に用ひられて居た銅器等が九州方面から中國・關西へと輸入されて、文化は石器時代から銅器時代へと進んで來た。然し關東地方ではまだ銅器時代の遺物を確める遺跡は發見されない

縄文式土器



曾て秩父郡小鹿野附近でこの銅器時代の銅鋒を損した石製品が發見されたことがあるがそれはやゝ時代の下つたものと思ふ。

青銅器時代に次いで、鐵器の製作が輸入されて石器で作つた武器等は鐵を以て作られるやうになつた。鐵の刀や鎧、甲冑などが出て來たりする

時代を銅器時代にならつて鐵器時代といふ。この時代になると最早や貝塚などはやらなくなり、日用器具も彌生式が進歩して朝鮮陶器の影響を受けて製作も優秀になつて来る。勿論從來關東地方に澤山居たアイヌ人も漸次東北地方に追ひまくられて、大部分は大和民族が繁延して來た。この時代になると大和民族は死人を葬るに支那大陸の風にならつて厚葬を以てし、大きな墳墓を作つて葬るやうになつた。其の墳墓は多く平地上に營まれて死骸を寢棺に入れ、石室を作つて之に安置し、石室の上を土砂を以て盛り上げて、大きな土漫頭を造るので之を古墳と稱する。

古墳の形式には圓墳、方墳、前方後圓墳、上圓下方墳等の數種があり、最も後期になると地下に穴を横に穿つた地下擴式とか入口を井戸のやうに掘り下げた堅穴式とかのものもある。古墳の周圍や外側には土で焼いて造つた埴輪の人形や馬形、家形、武具、圓筒等が立て並べられ、圓筒埴輪は恰も垣を回らしたやうに數多く並べられる。寢棺の中の死骸の上には身につけて居た耳輪、頭飾りの玉類、冠、刀鏡、靴等が入れられ、棺の外であ

る石室内には食器とか生活用品等を並べ置かれる之は當時の人々の思想では人間は死んでも、天國にて同じ形式の生活を爲すのだと考へられ、また靈魂は一旦肉體から離れても、死骸を保存して置けば、再び戻つて來ることがあると思はれたからである。この時代をば一に古墳時代といひ、大體に於て今から三千年前から千五百年前後までと云はれる。

わが國では古墳の最も多く存するのは九州地方と、大和、山城地方と關東地方の三地域であり、關東地方では上野國(群馬縣)と武藏北半(埼玉、東京)とである。本縣の内で最も大形な古墳のあるのは北埼玉郡埼玉村古墳群を中心とし、同郡荒木村眞觀寺古墳、太田村眞名板古墳、栢間村天王塚古墳、南埼玉郡村君村永明寺古墳であり、大里郡では三尻村古墳、吉見村青山古墳、比企郡では野本村古墳、唐子村青島古墳、小川町大塚古墳等で何れも小山のやうな形をした古墳がある。形は小さいが數の多く群集して居るのは兒王郡の金屋村、秋平村、旭村附近、大里郡岡部村、小原村、秩父郡荒川沿岸、北足立郡鴻巣町附近であり、其

他一つ二つの古墳は殆んど縣内全體に亘つて存在して居る。

古墳時代になると我國の文化も相當に開け、中央政府は大和に在り各地方には地方長官である國造などが置かれ、政治の形態も整つて來た。關東では崇神天皇の御代（凡そ千九百五十年前）に上毛野國造と共に知知夫國造が置かれて地方政治の形態を爲したのであるが、上毛野は即ち上野で群馬縣であり、知知夫は秩父で其時の秩父國の範圍は現在の秩父、兒玉、大里、北埼玉と比企の北半を包含した區域である。この當時は關東から中央政府即ち大和朝廷への連絡は中山道を経由したので知々夫（埼玉縣）から上野（群馬縣）信濃（長野縣）美濃（岐阜縣）近江（滋賀縣）山城（京都府）大和（奈良縣）と公式の交通が開けて居た。従つて政府の命令の傳達や、あらゆる文化の輸入も此の順路を取つて入つて來るので、上野と知々夫は密接な關係にある。

それから約二百年の後、成務天皇の御代に知々夫國造の南の方に允邪志國造が設置された。允邪志は後に武藏と書かれ、今日の入間、北足立、南

埼玉、比企郡の南半と、東京の區域を包めた部分である。

知々夫國造は出雲民族の末孫で、今日の北埼玉郡忍、埼玉村附近に居住して、地方を治めたが、其の人々の墳墓が埼玉村古墳群であり、附近を流れる荒川の清流に沿ふて遡り、秩父山塊の内の盆地に自己の祖先を祭つたのが今日の秩父町秩父神社である。允邪志國造も同じく出雲民族の末孫で足立郡の桶川、川田谷附近に居住して居て、東京灣の漸次南方に退くのを開拓し、當時は海邊の岬として風景の良い足立臺地の尖端に自己の祖先を祭つたものが今の大宮市氷川神社であり、其の人々の墳墓は川田谷村古墳や對岸の比企郡野本村古墳である。その内に秩父國造の勢力範圍は漸次西北の荒川沿岸に移轉して秩父は郡名として残り、武藏國造に統合されて遂に武藏國の名に依つて統一せらるゝに至つた。

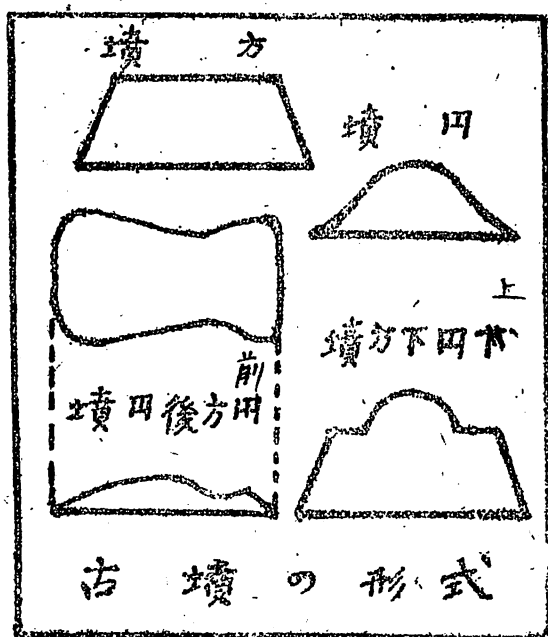
之等の間に景行天皇の御代（今から凡そ千八百年前）に景行天皇の皇子日本武尊の東夷征討があつて、残存せる關東地方のアイヌ民族は益々東北方に追はれ、日本武尊は常陸筑波山からの歸り途

に本縣の兒玉、秩父の山地を経て、多摩郡から甲斐(山梨縣)に入られた。次いで景行天皇が關東に行幸せられ、今日の東京灣を船にて通過されて安房の浮島や下總葛飾郡に來遊された。此時秩父國造の人々が出迎へて天皇を迎へ奉つたことが歴史の上に見えて居り、關東各地に現存する古墳や其の中から發見される種々の遺品は之等の史實を明瞭に證明して居る。

古墳時代も段々と終り頃になると厚葬の風もすたれ、また一方に經濟的狀態が餘り大きな古墳を築造することが出来なくなつたので、地下に横穴を掘つて死骸を収めることが流行して來た。之を横穴式といひ、栃木縣、千葉縣、神奈川縣にも存在して居るが、夫が群集を爲して居るので有名なのは本縣の比企郡西吉見村の吉見百穴で、其の數は一所に二百八十を數へ、今日いはゆる共同墓地の先驅を爲すものである。この吉見百穴を今でも松山驛には「古代住居の跡」と案内板に記して居るが、夫は誤りで全くの墳墓であり、古墳末期のものとして學界では確定されて居る。之と同じものは吉見の外に大里郡小原村にもあり、また東京

都下の多摩川下流沿岸にも所々にある。

二〇



顔抱いて犬が寝てをり菊の花
三人は淋し過ぎたり後の月

熊谷高等學校

野球部選手

に聞く

「榮冠涙あり」という言葉がありますが、勝利者がいかに黙々として日頃の訓練に精進するか。ここに新制學校野球大會並びに關東大會に暗れの優勝校となり埼玉スポーツのために萬丈の氣をばいた縣北の名門、熊谷



大きなあたりだ

語る人 熊高野球部

川野邊、田中、荻原
山本、橋上、福住
奥、石崎、北條
松倉、松崎、酒卷

司會者

ボーイスカウト埼玉縣聯盟

山口英和

ボーイスカウト浦和隊長

河合巍

場所 熊高社會科教室
日時 昭和二十三年七月二十一日

高校野球部ナインのなま／＼しい體
験を伺いましょう。

司會者 (山口)

本日は大變お疲れのところ、
わざわざお集り下さいまして有
難うございます。今日は諸君の
激刺とした又希望に満ちた御顔
を拜見し大變うれしく思ひます
諸君は今大會において郷土の
名譽のために堂々と戦われみこ
と晴れの優勝を獲得されまして
郷土野球界の偉容をお示しにな
り本縣のスポーツ界發展の糸口
を立派にお作りになりましたそ
の巧績は縣民のひとしく感謝す
るところであります。

今日はあの日の感激を新にさ
れまして色々諸君の御感想なり
御意見なりを腹藏なく受け賜り
たいと思ひますかくして今後に
おけるスポーツ文化發展の、一
助ともなれば私共の最も幸いと

する所であります。又諸君も同
感の事と思ひます。

司會者 (山口)

今大會を通じて諸君の一番心
に感じた事、つまり非常に感銘
した事があると思ひますが。

川野邊(主將)

先づ吾々は縣下大會で優勝し
續いて關東大會に臨む事になり
ましたが、埼玉縣は從來より低
く評價されていたので、私達は
先づ熊高の爲ではなく、郷土埼
玉の爲に戦いました。そして全
縣民の爲に萬丈の氣を吐き、埼
玉スポーツ界發展のよき糸口を
作つたという事です。

山本(右)

優勝した事は何といつてもう
れしいが今度の戦、にさよなら

ゲームを幾度もやつた事が一番
感銘深いと思ひます。とに角さ
よならゲームというのは、どん
ん場で勝利を得るのですから大
接戦をやらなければならぬ。
そして得た最後の一點が結局さ
よならゲームですから、その時
の感激は想像がつくと思ひます
しかし何といつても、關東大
會に優勝した事が一番うれしか
つた。

司會者 (山口)

ではこゝで訓練の實相につい
ての苦心談をお伺いしたいので
すが。

石崎(一壘)

例えば攻撃手のスイングで如
何にすればよいヒットが出るか
或は守備の場合もその通りで、
これを寝ても覺めても考えてい

練習(投手)

この練習は、野手の練習と、投手の練習とが、同時に進められる。野手の練習は、本選手等の寫真をよく参考にして毎日練習し、これが實際によく役立つ事を思ふ。

橋上(左)

本體取課後五時間の授業が終り、二ホースに着換えてグラウンドに出る。その頃になると、學校の生徒もフアンも學校の校庭に随分見えています。我々も一日々々、何等かの進歩を求めて前進しています。我々が集合してグラウンドを三巡してそれから準備體操をよくやります。その頃になると汗が流れて、すつ

と、野手の基本の二つで、これを充分やり、バツテングに移り、内野、外野を組に分けて、これを四、五組にします。そして、スバツテングからフリーバツテングに移りますが、先づバツテリーが先にやり、それから内野、外野をやります。そして、守備している方は一球々々試合のつもりで守り、打つ方も又その氣持で打ちます。フリーバツテングが終つてから試合が近づかない時はシートノックをやり、試合が目前にある時はレギニターバツテングをやり、その頃には試合の氣分が充實し、打つ人も守る人も互に

それが自分の廻る程強く打ち、そして打つ人も守る人も一騎打のつもりで夢中でやり、す。シートノックが終ると體もフラ／＼して本當に打ちのめされた様になります。シートノックが終ると次は打つ、かける、守るの三つのベースランニングに力を入れ、一人づつヒットや本壘打を打つた氣持で駆けまわす時にはベースランニングやスラ

都市計畫の四大目的

1. 都市の美觀を整へること。
2. 住居の安寧と健康の保持
3. 交通を便利にすること
4. 經濟能力を發揮せしめる

イテングを練習します。その頃になると太陽は既に西に傾き、四圍は漸く夕靄に包まれボールも全くよく見えなくなります。本當に三時半から六時、七時頃まで自分達の精進する場所として暮しています。

然し終つた後の氣持は又何とも云えないよい氣持でスポーツする者のみに味わえる氣持であります。終つて市内の者は七時半頃歸れますが、遠い人は八時か八時半頃になります。家に歸るとグツグツとなりますが我々はこゝです。奮起三番復習、練習をやりまゝ。

司會者

今、勉強とスポーツの關係が出ましたか皆さんはもうお考えですか。

松崎(中)

スポーツと勉強は兩立する事は出来ないと言ふ人があります。それは本人の考へ一つで出来ると思います。自分達の経験によれば夏の灼熱下に倒れてもやるという考へがあるならば絶體に不可能ではない。それは非常につらく、又大なる努力を要しますが私は兩立出来ると思ひます。

橋上(左)

スポーツで練磨したスポーツ精神を以て勉強すれば、兩立出来ると思います。一日中づんべんだらりの生活より僅かの時間も有意義に使えばかえつて好結果になると思います。

川野邊(主)

訓練をやつた後は非常につら

い。然しそれを乗りきつて行くところに價值があり、又これだけの頑張りがなければいけない。又我々はあくまで學生なんで、その本分をおろそかにする事は出来ません。

司會者

とに角本人の努力次第でスポーツと學業が兩立する譯です。ね、次は後援會について今迄の様子を伺いたいと思います。

川野邊

後援會は既に出来ています。これからは知りませんが現在はいさなり活發では無い様です。勿論熱心な人はあると思います。野球部としての學校の費用は三萬五千圓程度です。これでは如何ともし難く例えは手近なボールの事でも今は粗悪品が多いの

寺傳經千八百卷正德中合

[illegible]

今迄の試合中は一筆奮戦した
時、あつて誰かたりと。

浦原との決闘の時、最後の土
場で三船を大敗す。二對三で

形勢が急變した時、一番古戦に
参した。例年大抵は能高は始め
大勝が急だが駄目な年で打
つ。今午は全く逆の戦ひをした
が、勝負は勝つよりもこの男

01234567891011121314151617181920212223242526272829303132333435363738394041424344454647484950515253545556575859606162636465666768697071727374757677787980818283848586878889909192939495969798991001011021031041051061071081091101111121131141151161171181191201211221231241251261271281291301311321331341351361371381391401411421431441451461471481491501511521531541551561571581591601611621631641651661671681691701711721731741751761771781791801811821831841851861871881891901911921931941951961971981992002012022032042052062072082092102112122132142152162172182192202212222232242252262272282292302312322332342352362372382392402412422432442452462472482492502512522532542552562572582592602612622632642652662672682692702712722732742752762772782792802812822832842852862872882892902912922932942952962972982993003013023033043053063073083093103113123133143153163173183193203213223233243253263273283293303313323333343353363373383393403413423433443453463473483493503513523533543553563573583593603613623633643653663673683693703713723733743753763773783793803813823833843853863873883893903913923933943953963973983994004014024034044054064074084094104114124134144154164174184194204214224234244254264274284294304314324334344354364374384394404414424434444454464474484494504514524534544554564574584594604614624634644654664674684694704714724734744754764774784794804814824834844854864874884894904914924934944954964974984995005015025035045055065075085095105115125135145155165175185195205215225235245255265275285295305315325335345355365375385395405415425435445455465475485495505515525535545555565575585595605615625635645655665675685695705715725735745755765775785795805815825835845855865875885895905915925935945955965975985996006016026036046056066076086096106116126136146156166176186196206216226236246256266276286296306316326336346356366376386396406416426436446456466476486496506516526536546556566576586596606616626636646656666676686696706716726736746756766776786796806816826836846856866876886896906916926936946956966976986997007017027037047057067077087097107117127137147157167177187197207217227237247257267277287297307317327337347357367377387397407417427437447457467477487497507517527537547557567577587597607617627637647657667677687697707717727737747757767777787797807817827837847857867877887897907917927937947957967977987998008018028038048058068078088098108118128138148158168178188198208218228238248258268278288298308318328338348358368378388398408418428438448458468478488498508518528538548558568578588598608618628638648658668678688698708718728738748758768778788798808818828838848858868878888898908918928938948958968978988999009019029039049059069079089099109119129139149159169179189199209219229239249259269279289299309319329339349359369379389399409419429439449459469479489499509519529539549559569579589599609619629639649659669679689699709719729739749759769779789799809819829839849859869879889899909919929939949959969979989991000100110021003100410051006100710081009101010111012101310141015101610171018101910201021102210231024102510261027102810291030103110321033103410351036103710381039104010411042104310441045104610471048104910501051105210531054105510561057105810591060106110621063106410651066106710681069107010711072107310741075107610771078107910801081108210831084108510861087108810891090109110921093109410951096109710981099110011011102110311041105110611071108110911101111111211131114111511161117111811191120112111221123112411251126112711281129113011311132113311341135113611371138113911401141114211431144114511461147114811491150115111521153115411551156115711581159116011611162116311641165116611671168116911701171117211731174117511761177117811791180118111821183118411851186118711881189119011911192119311941195119611971198119912001201120212031204120512061207120812091210121112121213121412151216121712181219122012211222122312241225122612271228122912301231123212331234123512361237123812391240124112421243124412451246124712481249125012511252125312541255125612571258125912601261126212631264126512661267126812691270127112721273127412751276127712781279128012811282128312841285128612871288128912901291129212931294129512961297129812991300

ホーも僕を
のぞいてな
おした



司會者

成程はよからけしんでね。

試合に先立ちると熊高の応援団は非常に盛況であり、あの球場を圧する。③④の応援歌は全く観衆を奮起して試合の中に溶け込ませる。

我々の重宝

話の中心位置に選ばれるのではなく全部がそれという校長先生の計議なんです。然しこれはあたりきりの事で大きな意味に於ける「シンジ」のシンジブだと思ひます。

司會者

結局は勝利に導いたのは先生始め皆様の一體となつた所に原因があるのをね。では將來の希望に就いて何かが伺いたいのです。

福島(一) 米(一) 産(一)

野城と知らない人で、6ヶ月前に

例に倣ひ、物理學博士の位を二月が三月位
したが大抵の人は二月が三月位
便を乞ふと思つてゐるが實際は、
1. 兩位位、またない。又價格の
點下る同様、思ひます。つまり
學者の苦心は相當あります。
の點極度に知つて戴きたいと思
ひます。

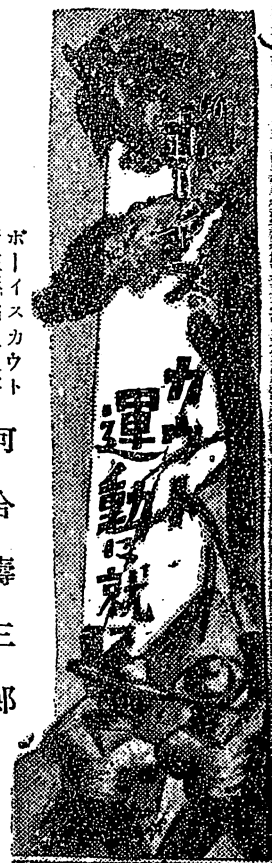
議會の目的學校の勉強は成可
くのさなき様にしてゐた。さ
うだ。出来れば上、目耀目と
つても無うさな。この様を事
は主催者の方々も感じた。つ
ても、この様な思想も、所

に申しのへた處に疑問と云ふべしを兩立せしめる上に於て、吐の點は歸に要素を兩立せし

本日は貴重なる時間を私達の

可愛く、少女は、ヒストルカを持つた大の男の前に立
てゐる。その顔は、緊張して使つてゐるが胸には小さな
汗だうさが波打つてゐる。しかも少女はクツと息を止
めるが、半は露る裸になつてゐる身ではない。
男が少女に何かいふと、それを見聞えたのか、少女は
さなり男の前にひきさかした。それから男はヒストルカを
手におもひた。ドドン！耳をぶんぶんするような音
が、ハッとした。少女は男から逃げるまゝに

を月々運動會の女王に
キトルのネーデルでやるに。



順序

ボーイスカウト
埼玉縣聯盟理事

河合 壽三郎

陽少年團等は其の異彩の一つであつた。

で稚々たるものであつた。

大正年間に入り、少年教育運動は各地に起り、其の教育の方法も獨自性的傳統を有する特異のものも少くなかつた。即ち有名な鹿兒島の健兒の社を初め神戸市の隣保少年團、沼津市の岳

一、我が國に於けるボーイスカウト運動

二、再建ボーイスカウト日本聯盟

三、本縣に於ける再建ボーイスカウトと現在

一、我が國に於ける

ボーイスカウト運動

明治以後我が國の少年教育は、學校教育萬能時代で、社會教育を實施する機關極めて少く、又其の組織並に教育も至つて區々で、其の發達も極めて

大正十年、天皇陛下、皇太子殿下であらせられし時、親しく歐羅巴各國御巡行英國御滯在中、同年五月廿一日エデンバラ市に於けるボーイスカウト大會に臨御あらせられ、創始ベーデンボーイル卿を御謁見の上御詞を賜り、且つ扈從の後藤新平伯に、「日本にもかゝる運動が望ましい」と仰せられ、感激した同伯は歸朝後御聖慮に應えて本運動を實施せんとし、當時東京市より慰勞金として贈られし十萬圓を其のまゝ創立基金に充て、こゝにボーイスカウト日本聯盟は、東京市に於て初めて呱呱の聲をあげたのである。

翌十一年四月十三日靜岡市に於て、全國少年團代表者會議を開き、少年團日本聯盟を組織

昭和六年の解散に至る迄の團勢は概ね次の如くであつた。

（スカウト）（海洋少年團）を併設し、昭和六年の解散に至る迄の團勢は概ね次の如くであつた。

加國團數及び團員數

加國團數 三三三團 團員數 二〇二、五一〇人

此の間、ボーイスカウト萬國大會議並に世界大會（四年目に一回）に参加し、大に國際少年團としての氣勢をあげたのであつた。

因に同會議並に世界大會參加狀況は次表の如くである。

二、ボーイスカウト國際會議

回次	場所	出席者
一回	倫敦	小柴博及 下田豊松
二回	日内瓦	内田寛吉
三回	三島	佐野常羽

四回	大正十五年	瑞西（カンデ）	佐野常羽
五回	昭和四年	英國（ベクト）	佐野常羽 林博太郎
六回	昭和六年	英國（ウギン） 海外（ベラン）	二荒芳徳 佐野常羽

二、ボーイスカウト世界大會參加

回次	時	場所	出席者
一回	大正九年	英國（倫敦）	小柴博 下田豊松
二回	大正十三年	下（抹國）	本聯理 三島通陽
三回	昭和四年	英國（パークン）	理 事 佐野常羽
四回	昭和八年	ハンガリー（ブダペスト）	理 事 小星範治

註 筆者は昭和八年夏第四回大會に参加

斯の如く、國際會議の途程を進めしめ、我が國のボーイスカウト運動が、大東亞運動會に其の特性國の移入品となつて、一部、極端に反響を與へ、古難の幾年を経て、今日、偶々大日本體育會が、國運動會の組織として、昭和十六年三月當局の指示で、我が國の國際ボーイスカウト運動を、

カウトは、遂に其の名を没したのである。

註 當時吾々は、多年の努力全く水泡に歸し、切齒扼腕再起企劃したが、時運に抗し得ず今日に至つたのであつた。

二、再建ボーイスカウト日本聯盟

國際少年運動ボーイスカウトは、すばらしき教育家ペーデンボーエル卿の努力により、今や世界的に展開され、少年の愛の握手を通し、世界平和の實現を期すべく、各國一様に此の運動に奔命しつゝあることは、幾多新聞雜誌に散見する所である。米國民の該運動に對する社會的認識には、全く感激措く能はざるものがある。日本に於ても再建の議が起り、昨年一月元日本聯盟理事東京市聯合少年團々長三島通陽氏を中央準備委員長に擧げボーイスカウト再建準備委員會を開設したのである。

開設に關しては、總司令部民間情報教育局ダーギン氏（青少年教育部長）の盡力によつたことは申す迄もない。かくて再建ボーイスカウト日本聯盟も愈々振出しから再出發した次第である。

同年五月十七日には第一回のキャンブファイヤを明治神宮外苑に開催し、皇太子殿下の御臨臨を仰ぎ、又來朝中のフランカン神父を初め、東京横濱在住のアメリカ進駐軍家族スカウトの厚意的参加もあり、有意義なる再建第一步を踏出したのである。爾來本計劃が全國に反映し、同志が一律に活動を開始、現在登録出願加盟隊は左表の通りである。

ボーイスカウト假加盟隊數

（昭和廿三、二、一〇日現在）

縣名	加盟數	縣名	加盟數
愛知	一六	山形	一一
新潟	一三	栃木	一〇
大分	一二	鳥取	一〇
東京	一二	神奈川	九
山口	一一	岩手	八
愛媛	一一	長野	五

香川	二	合計	一八三
埼玉	二		
茨城	二	岐阜	一
宮城	二	廣島	一
京都	三	岡山	一
福岡	四	兵庫	一
石川	四	滋賀	一
北海道	四	福井	一
宮崎	五	富山	一
奈良	五	福島	一
大阪	五	熊本	二
静岡	五	長崎	二

三、本縣に於ける再建運動と現況

昭和二十二年七月十五日、埼玉縣軍政部教育主任スカウト氏より、埼玉縣再建ボーイスカウト運

動の提案があり、同主任より筆者を通じ日本聯盟理事長三島通陽氏に交渉があつた。

筆者は當時縣社會教育課に勤務し、該運動に關心を持つていた關係上、同氏より更に筆者に連絡があり、よつて兩者相携えて七月廿五日スカウト氏を軍政部に訪ね、氏を中心に再建に關する具體的計劃を進め、早急實施することになつたのである。

先づ第一に指導者を養成するために、秩父長瀨に於てボーイスカウト實修所を開設し、其の修了者を以て隊編成を企劃したのである。

右實修所は九月廿五日より五日間に亘り、長瀨の森に於て開設、所長に日本聯盟理事長三島通陽、副所長に本部理事内田二郎氏に委嘱し、所生十八名を訓練したのである。猶此の實施期間中、總司令部教育部長タイバー氏は親しく視察せられ、又數々の訓辭をよせられた。

次に團員の詮衡であつた。團員の詮衡に就ては凡そ次の點が擧げられた。

1. 浦和市の在籍者で市に永年定着性を有するものなること。

2. 善良なる家庭の子弟たること。
3. 身體強健操行善良學業優秀なるもの。
4. 十三歳以上十八歳迄の少年なること。
5. 父兄の許諾あるものたること。

右の條件の下に各在學校長の御配慮により、全市に亘り八十名の團員を獲得したのである。

かくて團員を二隊に編成し、指導員を兩分して二隊に配屬毎週準備訓練を施し、十月二十五日午前十時を期し、秋晴の軍政部庭前に於て、來賓としてライアン司令官、西村知事、松井市長を初め多數參列の下に、嚴肅裡に結團の式を舉げ、各關係者より力強き聲援の訓辭を受けたのである。

教育の内容は號を逐い發表することとするも、要はよき村民よき町民よき市民よき國民を作り、更に一步進んで國際兄弟愛による愛他精神により世界平和の永遠性を目的とする。それがために心身共に健全なるスカウトに仕立て、人類としての共同生活の眞のコツをしつかりつかませる點を主義として進みたい。

埼玉縣内に於ける既成隊は本庄ボーイスカウト塩原氏忍ボーイスカウト(高野氏)がある。



ボーイ・スカウトのモットー

◆ ちかい

- 私は名譽にかけて次の三條の實行を誓います。
- 一、神と國に誠を盡しおきてを守ります。
 - 一、いつも他の人々を援けます。
 - 一、體を強くし心をすこやかに徳を養います。

◆ おきて

- 一、スカウトは誠實である
- 二、スカウトは忠節をつくす
- 三、スカウトは人の力になる
- 四、スカウトは友誼に厚い
- 五、スカウトは禮儀正しい
- 六、スカウトは親切である
- 七、スカウトは従順である
- 八、スカウトは快活である
- 九、スカウトは質素である
- 十、スカウトは勇敢である
- 十一、スカウトは純潔である
- 十二、スカウトはつゝしみ深い

郷土史の天竺紀念物

郷土史編纂委員

小川元吉

天然紀念物に
は動物(一)類、
礦物の三種類が
ある。

本縣内で保存
法によつて國務
大臣が指定され
たものに動物で
はその蕃殖地と
して一定の區域
を限つて保存指
定された鶯があ
る。

即ち北足立郡
野田村代山の野
田村鶯蕃殖地で
江戸時代から南
部の鷺山と稱し
て有名なもので
ある。

に沿う民家數戸の庭前の樹木や裏山の竹林や雜木
林に巢を營むもので、春彼岸に飛んで來て秋彼岸
に飛び去る習性を持つてゐる。群棲する期間は
月下旬から九月下旬に至る六ヶ月で、その間に産
卵育雛して繁殖するので、毎年飛來の箇所は異動
するようないふことはない。また日本特有の畜養動物
で矮鶏がある。これは區域を限らず矮鶏の主產地
である埼玉縣一圓が指定されている。矮鶏の飼養
者は保存上その改良と愛護に注意しなければなら
ない。この外に保存法によつて知事の假指定した
見沼の源氏螢がある。大宮市の東方見沼代用水の
沿岸に、一定の區域を限り滅亡の防止を行いその
蕃殖を圖つてゐる。

次に植物では櫻、樅、藤、もみじ、光鮮等が
指定されている。櫻は北足立郡北本宿村の「石戸
蒲櫻」で、この櫻は山櫻の一種であつて、根元廻
り三丈一尺もあつて馬琴の玄洞方言に載つてゐる
有名なもので山梨縣の山高神代櫻、岐阜縣の根尾
谷の薄墨櫻、静岡縣の狩宿下馬櫻、福島縣の三春
の瀧櫻と共に櫻の五大巨木と稱す大樹である。

度

胸

Y. H

「君から『男は度胸、女は愛嬌、僧侶は説教』と云ふて男には特に度胸が無くてはならないものにならねば居ます。男女を問はず人間と云ふものは一見して彼の度胸の有無は大體わかると思ふ。婦人でも顔姿は如何にみにくくても、精神の座つて居る方はその外形醜を補つて、何とも云ひようの無い美しさ、興味しさ、尊さといふやうなものが感じられるところ、度胸の無い普通の女ですと如何に美しく化粧や衣裳で身をよそわうてもそれは金商店のワイシャツの飾りの人形の様なもので少しも人間の美しさと云ふものが認められませぬ。人間形體の姿は第二と致しまして、先づ精神を第一としなければなりません。古人も『志を養ふ者形を忘る』と言つて居るのです。近來美顔術

になつて行くと思ひます。如何にとつしりと落着いて居る様に見えても、『男總身に智慧が廻りがね』る様な人間ではウド、の太木と等しく何の役にも立ちません。之に反し精神、肉體共にどつしり大きいのはなんだか威壓を感じ非常に立派な者です。

どうしても末の末まで見通すだけの明敏さを持つて居なければなりません。そうして一度決心したら、それをやり通すだけの熱烈なる勇氣を持つて居なければなりません。

さうしますと度胸のある人と云ふのは、積極、積極と云つて積極が過ぎて盲目的になつた猪突主義や、お先走りをやつたりする人と違ふ事は無論の事でありませぬ。又それと同時に何時もくして逡巡、猶豫のうちに引込思案のいはゆる消極的な實行力に乏しい人でもなければ、事が分かりませう。即ち度胸のある人、云ふのは確かな智慧を擁し、果敢決意から通すだけの信念を持ち得る人を指すのであります。さうしてその信念の根柢を造る者は天地に愧ぢない正義の道であります。

母の背中で

江川 光

母の背中で

聞いたのは夢か

とるりほろろき

子守唄

なんで泣いたか

泣きじやくり

遠いほろかな

思ひ出

母の背中で

母の背中で

母の背中で



或る夕ぐれ

眼に一杯涙をためて、彼女はぼんやりと立っていた。

その手には小刀が握られている。にぶい鋼鐵の上に窓を透れる光が映じて、彼女の顔は青白い影を怪しく色どられていた。

大粒の涙がそのほゝを傳はつて落ちる。それをほらおうともせず、彼女は白痴のように立つた。遠い所を見つめている。やがて眼の裏を流していったが、やがて眼を落すと手の小刀に見入った。

思い切つて――と彼女は小刀を握りしめた。が、それには大きな決心を要する。その覚悟が彼女にはつかなかった。

とほ言ふものか、とてゐる。静に

他の誰かにも

無の音

何この青月でも

数じやない

青はあんな

月が映く

星の清月の

あんなの甲斐

あんなの乙女も

うつせし

過世のあんな

なんでも

思ひはるかな

思出よ

人



眼の光

眼の光はあんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに

あんなに



こと。

三、今までよくいわれている危険思想の取締を行つたためにあつた特高警察とか秘密警察機關を廢止したこと。などであります。

その次には

一、今まであつた軍隊に似ている組織の警備隊が廢止されたこと。

二、從來警察で行つていた種々雑多な仕事、例えば衛生の仕事とか、工場關係、保險關係、勤勞關係についての行政は警察から離して夫々別の所で専門的にやるようになったこと。

三、國內の制度の切替におくれないように警察官の教育が大事ですから新しく警察官の學校を設けたり、みなさんから親しまれるように制服の型を變え又サーベルを廢止したこと。などであります。

さて、そうこうしている間にアメリカにおける警察制度の一番くわしいヴァレンティン氏とオランダ氏が我が國に來られていろいろ調査研究された結果、日本の警察制度をどのようにかえなけ

ればならないかという意見書を、ヴァンダーサール元帥に提出されたのです。一方我が國内でも立派な人達や専門家に種々意見を求めて制度改革の準備にかゝつておりました。

昭和二十二年五月三日を覚えておいでになりますか。この日は「日本國憲法が施行せられるに至つた記念すべき日です。憲法には國家の大本となるいろ／＼なことが定められておりますが警察制度を改革しなければならぬ直接に關係のある規定として、

一、國民の一人々々の人格を尊重し、その人の權利を擁護しなければならないこと（人權尊重）

二、いろ／＼な權限を縣や市町村にもたせて夫々地方住民の自治組織を強化すること。

などが定められております。このことは後で詳しく説明しますが非常に大事なことです。

こういう憲法の定めを基にして政府でいろ／＼準備を進めている所へ、昭和二十二年九月十六日附でマツカーサー元帥が片山内閣總理大臣にあて、「警察制度改革に關する書簡」を寄せられたのです。そこで政府はこの方針によつて警察法案とい

體警察を設けるような都會的市や町を除いた農村地帯の警備に當るために縣には國家地方警察埼玉縣本部というものがあつて、その下に縣下に十八の地區署と一つの支所が設けられてあります。

即ち今迄唯一つの組織であつた警察が國家地方警察と四十七の夫々獨立した自治體警察とに分れてしまつたのです。そしてこれらの警察の間ではお互に命令しあふことはできませんし、普通の場合にはお互に他所の所に行つて警察の仕事は出来ないことになつております。しかしながら相互に協力しあわなければならぬし、又一旦自分の所で始つた犯罪については縣内は勿論のこと全國のどこへ迄も追かけて行つて握ることが出来ます。又他所で起つた犯罪でもその事件が自分の町に影響を及ぼしてきたときには敢然としてつかまえることが出来るのですから、犯罪事件を解決することについては地域の上で何一つの制限もないことをよく御承知おき下さい。

その第三は萬が一にも國內に非常事態が発生した場合にどうなるかという定めが設けてあります。非常事態というのは例えば昨年の大水害の場合と

が、大地震があつて縣民皆驚き不安動搖を來している場合とか、或は暴動のおそれがある場合とかです。昔はこういうときは軍隊が出勤して警備に當つていたのですが御承知のように憲法の規定に基いて我が國は軍備を撤廢しましたので、軍隊なき後の治安を維持し警備と秩序の維持に當ることは警察の任務となつたのです。この非常事態發生の場合には内閣總理大臣が全國又は一部の區域どこそこに対して國家非常事態が發生したのだという布告を發します。そうすると内閣總理大臣によつて一時的に全警察が統制され、國家地方警察も自治體警察も區別なしに指揮命令が一本になつて必要な措置がとられることになります。そのくわしいことは後で又述べることに致しましょう。

以上が今度できた警察法の大きな特徴ですが次に新しい制度を圖解してその一つ／＼を説明して参りましょう。

官廳御用達（事務用品一般）

本 多 四 郎 商店

浦和市岸町六の八六
電話浦和二四八三番

内閣総理大臣

国家公安委員会

国家地方警察本部

国家地方警察本部
管区本部
札幌 仙台 東京 大阪 福岡

都道府県公安委員会

市町村公安委員会

国家地方警察本部
都道府県本部

市町村警察署

国家地方警察本部
地区警察署

支所

派出所 駐在所

派出所 駐在所

国家非常事態の特別措置

→ は普通の命令指揮系統

→ は国家非常事態の際の命令指揮系統

公安委員會について

警察法の特徴の中で警察の民主化について述べましたが、その際に公安委員が警察の仕事に参加し或は上に立つに指揮すると申しました。このことをもう少し詳しく述べてみましょう。公安委員が集つて開く會議が公安委員會ですが、その公安委員會に國家公安委員會と都道府縣公安委員會と市町村公安委員と三つの種類があります。國家公安委員は五人で内閣總理大臣が國會の同意を経て任命します。

公安委員は五年間勤めなければならないのですが今回に限つてその中の一人が一年間、一人が二年間、一人が三年間、一人が四年間、一人が五年間勤めることになつていて毎年五人づゝ交替してゆきます。國家公安委員會ではどういう仕事をするかといふと、

一、警察には警察だけで使える特別の警察通信というものがありますが、この施設の中國家地方警察に屬するものを維持しこれを管理すること。

二、犯人を捕えるためにいろいろな機械や藥品を使います。世間でよく言う科學化ということですがむずかしい言葉で犯罪鑑識施設と申します。これを維持し管理すること。

三、警察官の教養を施す爲に東京に警察大學校があり全國に六つの警察管區學校があり、各府縣に警察學校があります。これらの教育機關やその外の教養施設を維持し管理すること。

四、國家地方警察についての警察職員を採用したりする問題（人事といふ）やお金がどれ位かかるかを調べたり、支拂をしたりする問題（豫算といふ）警察本部の課を幾つおくと警察署や駐在所をどこにおくかというような問題（組織といふ）この人事豫算組織の仕事をつくるめて警察の行政管理といふ。五、指紋とか、似かよつた犯罪のやりかたの蒐集統計をとること。又犯罪事件の統計をまとめること。

六、國家非常事態に對處するための計畫をたてその實施について準備しておくこと。

七、皇室の警備に關することや、國會その他の

國家機關のついでの特権

大凡以上のよう盛大な仕事をするところもあり
ます。即ち從來は純然たる行政官たるが、警察の任
事に從事してゐたのは、國會の同意を得て總理大
臣が任命した警察官以外の普通の人は五人、同
家地方警察と關係のある地域の仕事に關する、同
様の地位にある警察官を連帶することになる
ものがある。それが一様で、前の圖柄をみて、
警察の民主化とは、たゞその人を代表する、その人を
考へてゐる下さい。この公安委員に選ばれたものは
一度でも警察官にしたものはある人は絶対的狀
態にある。

又官吏や公吏になつたところのある人が今でも
りである人もおられる。そのうち、いふやうな、
まず、ごく普通の一般の人は、世論を十分、聞
いて世間の人の聲を警察の頭には反映させる。
す。一般に或職業に關する人達、その集り、
は、伸々、目新し、改革を企及し、その集り、
多く、反對に全然無關係な人、然し、
素人も、清新な気分を、青月が思ふところ、
は、です。繰返して、申し、警察の民主化

の申の、
大きな、
です。

前の圖
で、御
の、國
を、お
の、國
を、お

の、國
を、お
の、國
を、お

の、國
を、お
の、國
を、お

の、國
を、お
の、國
を、お

の、國
を、お
の、國
を、お



はできませんがそれ以外にまだくたくさんのむすかしい條件があります。

例えば刑罰の中に禁錮刑というのがありますがこれ以上の重い刑罰に處せられたものはいけなかつた。法律（民法）で禁治産者、準禁治産者、破産者などというむすかしい言葉がありますが（何れ將來その意味が分るようになりますから説明を省きます）そういう人はなれないとか或は同じ政黨に屬する人が三人以上同時になることはできないとかいう制限があり、委員になるのには資格審査も受けなければなりません。

然し國家公安委員に限つて年令は何才以上という制限もなければ又何所に住んでいる人でなければならぬといふ制限もありませんので、廣く日本全國から選ぶことができます。

勿論女の方でも結構なのです。現に五人の中一人は福岡縣、一人は群馬縣の人が國家公安委員になつておられます。皆さんは法務總裁という官職のあることを御存じですか。つい最近までは檢事總長と呼んでおりました。

國家公安委員はこの法務總裁と同じ程度の報酬

を受けることになつております。五人の委員の間で一人の委員長を選びます。委員長は一年間勤めることになつていますが二度三度同じ人が選ばれてもよいのです。委員長は會議をまとめてその結果を本部長官を通じて指圖するわけです。

國家公安委員會の外に違つた權限をもつ都道府縣の公安委員會と市町村の公安委員會とがありますが、これらについては次回に説明することに致します。

◇足立郡の六別所◇

浦和市に別所町がある。この別所と云う地名は各地にあるが、別所町は浦和市に合併した元六辻村の大字で、昔は獨立した別所村であつた。この別所は鎌倉時代の豪傑岡部六彌太の領地で、足立六別所の一つである。この別所の地名を探して見ると五ヶ所判明し一ヶ所が不明である。即ち

浦和別所町 指扇村大字指扇別所

宮原村大字大谷別所（今大宮市に合併）

伊奈村大字小室別所耕地 常光村大字常光別所

岡部六彌太忠澄は猪俣黨の支族で元暦年中攝津國一の谷の合戦で軍功があつた人で、大里郡岡部村に住んで同村普濟寺に墓がある。



埼玉縣に傳へられた説話

太古石器時代の我
崎聖地方は、常緑潤
葉樹に覆われ、大森
林をなす。

眞とは思はない。以下脉内から。三

二、段竹(あしのまだ秀でぬもの)

を種族分が、一、二百年以前、即ち奈良朝の頃には見渡を限り藤原朝の武内野に化してゐた。秋草深い大平原を開拓して時代文化を築き上げたのは我々藤原將士の血統である。その祖先の間に這種々の話話が遺された。その說話即ち傳説なるもの傳へ我々の祖先全體が共同傳承したものの爲る。勿論歴史のことも支那、遺物、遺跡を根據としたものといひ、然るの趣を異にしたがる。史傳説は歴史裏の價值を認めず、その爲に歴史科學的見地から見れば、政治、光潤無益の物語に歸する。併し傳説にも価値興味あり。一面は如何物が、暗示する所があり、一面の全體に於て無價

と相入て多經祀此宮命、依比古宮命、多經祀此宮
命の三座が祀りたゞある。所謂天倭之神と血統の
身形は天倭の體部を以てしむるなり。神傳云、天倭
佳古在原業作御成りて皇孫也。神傳又云、
池に押して天倭細依と共に坐する所の社と加賀
との事、神傳に化し、今伊弉諾小立の神
かし。龍崎島池を涌したるもの、伊弉諾の國、今の大
井郡の地と云ふ事とあるなるもの神社、神傳維
新町邊同所の本碕に別當である。龍崎池水の
清く生え初めは清澄の殿と同じである。それ故
かゝつても、其後樹木でまじりぬれぬいゝ春には

その時、醍醐天皇の、同年中弘法大師、國分間の途次、當時に宿を乞ひて佛法興隆の爲め祈禱し、この不思議な夢を辨財天の地に告ぐ、此の爲めあらうと云ふ。

上述の如く、裏竹には三つの傳説がある。一説は業平の東下りと關係があり、一説は弘法の當國行脚と因縁があるようである。双方とも當國に遺蹟と稱するものがある。業平卿に關しては、三芳野の初鷹や隅田の言問ひなどの古歌傳説があり、又弘法大師に關しては、所澤在下新井の里の満井戸や與野在落合の里の二度栗山等は弘法の遺跡として著明である。

如何に左様に信ぜられていても、弘法の關東巡行については、學者間に相當な議論もあり疑問とされている。それは空海は最澄等と共に入唐して唐から歸朝して後最澄は台密、空海は東密を傳へ兩者は都會佛教を排斥して山嶽佛教を創開し、我國佛教の革命に努力したのである。

故に空海を研究すればその一生を通じて到底諸

行脚傳説の内容が、或は、又歌人業平の東國に印した足跡が、或は、の邊りに及んだかそれは俄に斷じ難い事であるが、元來和歌に堪能な業平が歌道の隆興を辨財天に祈つたと云ふ事が如何にも優れた歌人であつた業平卿が偲ぶるゝのである。

二、野火止塚

北足立足立郡大和田町大字野火止に臨濟宗妙心寺派平林寺と云ふ有名な寺がある。その寺の裏手に經十間、高五間あまりの塚がある。この塚の名を野火止塚と云ふ。大字野火止塚の地名はこの塚の由來したもので、相當古い傳説を有してゐる。既に伊勢物語にこの野火止の事が書いてある。その一節に、むかし一人の男が或る娘を誘拐してこの武藏野に連れて來て同棲して居た。然るにその男と云ふのが盜賊である事が國衛の役人に知れて今にも捕へられようとした。男はそれを知り且恐

世界的な見沼通船堀とその閘門



By: M. OGAWA

神戶市の大字に太牧と云ふ所がある。この字八丁に見沼通船の跡が遺つてゐる。その規模はたいして大きくはないが、今から二百年ばかり前に、今の東京、その時分の大江戸は徳川將軍のお膝もとで、今の東京を同様全國から大勢の人々が集つて来て、非常に繁昌で日本文化の中心をなした。しかし、交通は非常に不便の馬に乗るか駕し、

無
能
の
上
に
非
常
に
不
便
な
もの
であ
る。そ
れは江戸を中心とし、軍事上の防備のために立派な街道が張りめぐらされ、河に橋を架け、舟・渡船や他の方法で河へ越すことも出来ずとも不便極まるものである。それはその不便を要害として江戸城を守起すための敵軍攻撃に備えたもので江戸幕府は不便を感じ乍ら交通の進展発達を圖らなかつた。ところが大江戸に付着してゐる大勢の人々も、この食糧である米麦が製作であれば何の問題もなく無事泰平にその旧習暮らしすることが出来るが、農作物が凶作で收穫量が少なくなると、それがまづ食糧に差支えていくと金があつても買ふことが出来ない。それを饑饉と云うて金があつても食物がないので金を持たなければ餓死すると云う始末で江戸の人々はしばしばこの饑饉に襲はれるので、當時この食糧対策は江戸生活の大問題であつた。

局部的な天氣豫知法

A 氣 壓

1. 餘り天氣晴明にして、蒸暑いのは却つて不安
2. 異常炎熱は降雨の兆

B 氣 壓

1. 氣壓下降は天氣變化の兆
2. 風が太陽の運行に伴うて變ずるは可、然らざれば變化の兆

3. 海陸軟風等の定風の規則正しいのは晴天の證

C 空の 色

1. 純碧ジュンヘキなるは高氣壓に關係し、青白いのは低氣壓に關係する

2. 朝焼は一般に天氣不確、夕焼は晴天の兆

D 光學的現象

1. 日月の笠を生ずるは多く降雨の兆

2. 虹の東方は晴、西方は降雨の兆

E 動植物

1. 病人や神經質の人の異常を感じるは悪天の兆
2. 海魚早朝から海上を飛ぶは多小風あれども晴
3. 蛙の鳴くは降雨の兆

この大工さんに四才になる子供と、七十才ばかりの老父がありました。その大工さんは、老人を押入れに入れて、虐待したという話があります。或時大工さんがお出入りのお祝によばれて、折詰を一函もらつて歸りましたが、大工さんは老父には少しも與えないで、その御馳走を子供と二人で食べてしまいました。その時に子供が父に向つて申すのに、「お父さんこの空いた折函を下さい」と云つた。父の大工は何にするのだと聞きますと、子供は答えて言うには「お父さんが年老いてから押入れに入れて、この空函に食物を入れて進めます」と申したので、大工さんは大いに悟つてそれから前非を悔いて老父に孝行をつくしたということでありまう。この事實は古いお話ですが諸君はどう考えますか。

急 告 !!

今度アメリカ陸軍所有の映寫機が本縣に相當數貸與せられ、皆様の御希望に應ずる事になつて居ります。大いに御利用して下さい。尙詳細は各地方事務所へ

埼玉縣社會教育課

足

袋

の

話

埼玉は全國に有名な足袋王国です

三 橋 驚 貞

は し が き

今日、足袋を知らぬ人や、足袋を用いぬ人はな
いといわれます。斯様に一般社會層に普及された
布製の足袋は、實にその起源を尋ねて見ますと案
外新しいものでありまして、足袋が我が國の各階
級を通じて愛用されるに至つたのは明治以來のこ
とであります。そのことに就きましては後で、や
ゝ詳しくお話し申し上げたいと存じます。

一、足袋は純日本的な貨物

私共の身邊を見廻しまして、純日本的と申すべ
きものは案外少なく、大抵アジア大陸から或は西
洋から舶來したものが多いのです。けれども疊や
座蒲團や障子はどうかという説が起るでありませ

うが、その生産方法が順序よく發達の階梯を経た
ものということになります。實に珍らしいもので
ありまして、私の信する處によれば、足袋事業以
外に、以上述べました條件を満足させるものは容
易に見出し難いと思はれます。

足袋がかくの如き興味深き意味のものであると
いうことは、多くの人々によつて氣づかれないよ
うであります。それは足袋が吾々にとつて餘り親
しみがありません。それは足袋が吾々にとつて餘り親
由からでありませうが、それとも燈臺下暗しで、
脚下に存在するためでありませうか。とにかく足
袋の發達を考えますと、私共の經濟生活の進歩が
まざぐと明瞭に想い出せるのでありまして、

本人の生活の進歩を最も典型的に代表的に教えて呉れるものであります。

二、足袋の起源

一體足袋という言葉の起源はよくわかりません「言海」には「tabi」という和蘭語から來たのではないかとありましたが、和蘭との交通が開かれる以前に、足袋は單皮、踏皮と書かれてあり、またもつと古くには多鼻と書かれて居りましたのです。すつと昔の靴下は襪したずと稱せられたもので、丁度今日朝鮮で一般に用いられているものとその形を殆んど同じくして居りました。足袋と襪や今日の靴下との間に於きまして、著しく異つた特徴はツマ先きが親指と他の四本の指とが分けられてある點であります。初期の足袋は皮製で、熊の皮や猿の皮などで造られて居つたものでありますが、昔の貴族は外國風の生活をして襪を用いて居りましたので、恐らく源氏物語の紫式部の頃、武士階級の間に皮足袋が用いられるに至つたものであらうと想像されます。ですから、皮足袋の起源は可成り古く、約一千年を経ていると申し得るのであります。

三、皮足袋と皮足袋屋

皮足袋は徳川時代に至りますまで廣く庶民階級に漸次用いられましたが、今日のように足袋を誰もばくというわけには行きませんでした。我が祖先の大部分は素足で寒い冬を過して居りました。昔の繪卷物などを見ますと、雪の降つてゐる日の合戦に、武士が素足で居ります。

先年私は福島縣下にスキーにまいりました處、宿屋の番頭が素足で藁草履をつけただけで雪の中を出迎えて呉れて荷物を背負つて呉れたのには、全く驚きました。吾々の祖先も餘程頑固な足を持つていたと思はれます。

皮足袋が専ら用いられた當時に於きまして、専門的な皮足袋屋があつたものかどうかという疑問を抱きまして、古い繪の中に皮足袋屋を発見しようといいたしました。が、仲々見つかりません。たゞ埼玉縣川越の喜多院という有名な寺の本堂にあります。職人繪づくしの屏風があります。

これは國寶になつて居りますが、その中の繪の一枚に皮師があり、この皮師の店先に、數足の皮

足袋が吊されて居りますのを見つけました。誰れの作であるか、専門家の間にも意見が分れて居るということでありますが、とにかくその繪は徳川初期のものであります。それによりますと、皮足袋は獨立した足袋屋でなくて、皮屋で作られて居つたものであると認めねばなりません。つまり、未だ當時は職業の分化が進まず、皮足袋屋というものになかつたわけであります。

四、木綿足袋の始め

今日、吾々が足袋と申しますと、皮足袋を想い浮べる人はありません。誰れでも木綿足袋こそ今日の足袋の普通の觀念です。この木綿足袋は徳川三代將軍家光の頃、長岡三齋という茶人のお母さんが創めて造つたということであります。三百年程の昔のことでありますので、果して何人がオリデナルの作者であるか、それを詮議立てることはむづかしいことです。然し次の二つのことは言ひ得ると思ひます。

第一、足袋は吾々の座るといふことを、通常の姿勢と致すことゝなつたのと期を等しくして居ることです。昔は座るといふことはありませんでし

た。あぐら、立ひざなどが通常でありました。徳川時代以前の繪畫によりますと、いろんな姿勢がありました。これが徳川二、三代將軍頃に座るといふことになつたのであります。また疊というものは座敷に敷きつめてありませんでした。今日の座蒲團の様に、座敷のあちらこちらに移動して用いられて居つたものです。それが矢張り徳川三代將軍家光の頃に、座敷一杯に疊を敷きつめることゝなりました。

つまり、私の觀察では、疊庭敷と座る姿勢と足袋とは殆んど同時に生れたものと致します。勿論この過程には茶室の影響があるわけでありますが戰國時代の我國民生活は疲弊困憊して居つて落ちつきのないものでありましたが、家康が天下を統一して、三代將軍の時に至りますと、一般の經濟生活が非常に發達して始めて座つた落ちつきのある生活に入ることが可能なものと思はれます。

第二は、木綿足袋は江戸時代に先づ發達をしたといふこととあります。東京こそ今日の足袋の發祥地であるといふことです。

昔時は日本文化の中心が關西でありましたが、

家康が幕府を江戸に開いてから、政治と文化の中心が江戸に移つて來ました。この傾向は初期の木綿足袋の發達に最も明白に現はれて居ります。

四代將軍家綱の明暦四年正月江戸に大火が起りまして、江戸の大半を燒きつくし、死者十一萬人を出しまして、この火事は振袖火事と稱され、よく物語によつて傳えられて居ります。この天災こそ足袋を民衆化する大きな動因となつたものです。その理由はこうであります。その大火後江戸に於ては、火消の制度が整備されまして、火事裝束として革羽織、革頭巾が採用されました。この革羽織は豐太閤が、或火災に手柄を立てた堀丹後守直寄に贈つたということに起源するものですが、振袖火事以後、革羽織が流行して、その結果、鹿革の値段を騰貴させてしまいました。そこで、これまでは専ら鹿革製足袋でありましたが、經濟的の代用品として木綿を採用することゝなつたのです。

五、木綿足袋屋の起り

木綿は遠く桓武天皇の御代に傳來したものであります。徳川時代には各地に普及致して安價に生産されるようになったものであります。

今日で云うならば、羊毛の代りに、ステープルファイバーを代用すると同じ理由で革に代つて木綿が用いられて、足袋が江戸に於て先づ民衆化したのが、江戸から漸次地方に及びまして、日本全國に普及することゝなつたのです。

でありますから江戸が足袋の本場であります。

日本に於ける足袋屋と云うものも、日本橋人形町に現はれました。このような關係で足袋の本場が東京にありますため、關西では今日に至りまして、東京足袋というものを珍重いたし、足袋のやまし人は、特に東京足袋と銘打つたものを今日もなお買つて穿いて居ります。東京は足袋と深い關係にありますため、一體に東京人は足袋に深い理解を有して居りまして、よい足袋をはく人が多いため、足袋を造る技術もこゝに最もよく發達して、だん／＼すたれる傾向はありましてもお今日著名な足袋店が存在して居るような次第です。

六、足袋の構造

足袋の構造の變化に就きましては、詳細に亘り難いのですが、最初は筒長と申しまして、深いものであります。それに、甲馳こわせが無く、紐付きで

ありました。底は最初刺底であつたのが、後には雲齋が用いられることとなりました。

現今の足袋は、座敷足袋と地下足袋に大別することが出来ます。地下足袋にはゴムの使用が多く行はれて居りますが、座敷足袋の材料はキヤラコ朱子、別珍、コール天などが主要なものであることは皆様の御承知の如くであります。然し最初の足袋は、手織の白木綿で造られたものであります。底は絹糸などで刺したもので實に見事ではあります。すが未だ足袋屋というものがなかつた時代には、皆各自家庭で手製しました。ゆゑ、仕立が甚だ粗雑であることを免かれませんでした。足袋屋が始めて生れましたのは萬治二年でありまして、今から百七十年程以前、櫻井六右衛門という人によつて開かれました。この人が足袋屋の開祖とも云うべきであります。言ひ換えますと、明暦の大火があつた翌年に江戸に獨立した足袋の手工業が始めて確立されたのであります。

然し専門的な足袋屋が追々と發達いたしました。が、田舎などでは、大抵は自家製で間に合はせるか、或は農家を廻つて歩く足袋職人がありまして

衣服を造つた餘り布れで、手間賃を貰つて足袋を造つて歩いたものです。西洋の經濟史によく出るアイティナリー・スワーカーが我が足袋産業にも存在いたして居りました。

足袋というものは、一見しますと形も小さくまとまり易い、造るにも左程の技術を必要としないように思はれますが、仲々左程ではないのです。一人前の足袋職人となるには、永い歲月、年期奉公をせねばなりません。手工業としての足袋屋は明治時代には、日本到る處に在りました。この頃に製造せられた足袋は、今日の機械生産の足袋とは比較にならぬ程、あらゆる點に優れて居つたものであります。

七、足袋産業の發達

現今は、足袋は老若の區別なく、また年中何時でも用うることでありますが、徳川時代には喧しい掟がありまして、足袋をはくことには種々の制限がありました。年令五十になるか、或は病氣のものでないと足袋は庶民階級の間では着用が出来なかつたのです。また、舊暦九月の節句から翌年三月の節句までないと足袋をはくことは出来な

かつたのであります。明治となつて斯くの如き制限が無くなり、また人口が増加するにつれ足袋の需要も多くなるにつれて、在來の小仕掛の手工業的足袋産業では需要を充實することは困難となり足袋産業は手工業から家内工業え、産業進化の一階段を進めました。

殊に關東では埼玉縣忍町行田に、關西では大阪に完成された家内工業が發達しました。この生産組織の下に於ては「問屋」或は「萬取屋」というものが中心になりまして、多數の足袋職人に材料を渡して製造の各過程を経過せしめるものでありまして、分業が可能とされる結果、可成り多數の足袋が製造されるのであります。この方法は今日に至りまして、行はれて居りまして、現に東京とか大阪とか行田などに於ては、この組織で多數の足袋が製産されて居ります。

八、足袋の工場生産

足袋が大規模な工場生産となり、機械が應用されるに至つたのは、日清戦役の頃からのことであり、明治三十年頃からこの傾向に拍車がかけられ九州久留米、大阪府堺市等には大規模な足袋工場

ふ祝を刊發

ボーイスカウト日本聯盟

理事長

三島通陽

事務所 丸ノ内千代田ビル内

◎みんなできうすれば

時間をまもる 楽しい時間が多くなる
秤にしたしむ 正しい配給が得られる
汚水汚物を片付ける 悪い病氣がなくなる
迷信を追放する 生活が明るくなる
窓をあけて外氣を 健康が訪れる

が設立せられるに至つたものです。

工場制度の特徴は大資本によること、大勢の労働者が一つの建物の中に集められて、細い、分業過程が行はれるということであり、機械の使用と分業によりまして、一足の足袋を造る平均時間は八分間を出でないということであり、昔、手工業時代には、一日一足ということが標準であつたのに比較して、誠に非常なる變化であります。然し、今日の足袋工場の職人は足袋を造に何十分の一個の分業の一工程のみに熟練していても、完全に一足の足袋を裁断から仕上げまでをいたすことを心得て居りません。

戦後日本全國で一箇年どれ程の足袋が生産されるかはつきり致しませんが恐らく、四億足に近い足袋が必要されると思はれます。然し近年洋服が普及いたして参りましたので、人口の増加する割合には足袋の需要は増加しないと思はれます。従つて今後の足袋産業は、それだけの行詰りを感じるわけとならうと思はれます。然し近年地下足袋が發達して殆んど草鞋を驅逐して了いました。

九、足袋事業の開拓、宣傳

五八

なお戦後の日本經濟を救うのに、もう一つの新しい足袋事業の道があります。世界の各地には未だ素足でいる民族が印度、アフリカに澤山居ります。我國の木綿産業が安價な綿布を提供して裸の人々に着物をさせましたが、足袋事業、この裸足の人々にはきものをはかせねばなりません。西洋の靴も日本の地下足袋も不調和であります。新しい工夫が必要と思ひます。

一〇、日本人の足

足袋はあたゝかく、私共の足を保護してくれますと同時に、決して靴のように足をいためつけません。私はかつて醫學の立場から足のことを書いた書物をよんだことがあります。西洋人の足は靴のために殆んど奇形的になつてゐるものが多いということ。日本人の他の人種との區別は、足の指を見ればわかるというほどに、日本人の足が自然的に美しくあるといふことは、全く足袋の御かげでありまして、ベルリンのオリンピックに於て、幾多の我が選手が輝々たる名聲をのこしたことは、足の強さによる處が少なくないと思はれます。

吾々は徒らに外國にかぶれることなく、足袋を愛用して、足袋を基調とした日本獨特の生活様式をまもつて行きたいと思ひます。

むすび

以上のことを要約いたしますと、足袋は我國固有の貨物であります。そのため、その製作技術も生産組織も日本人自身で工夫し發達せしめねばなりませんでした。それ故、わたくし共の經濟生活の進化を最も代表的に現はした居るのです。これから、毎日足袋をはくにつれ、以上のことを想う時、限りなき興味が湧き起ることゝ存じます。

鐵道の軌幅

1. 廣軌 ……四呎八吋半で歐、米の各國、朝鮮滿鐵等、これを標準軌道といふ。
2. 狹軌 ……三呎六吋で我が國內地の鐵道は之に屬する。
3. シベリヤ鐵道は五呎で、超廣軌といふものであつて例外である。

車窓の雨

野口 貞雄

絶え間なく降る雨は
轟々と走る列車の音に
黙りこくつてしまつてゐる
けれど、啞の様な雨は
締め切つた汽車の窓に
しきりと何か畫いてゐる

銀色の細い無數の線を
四角な窓硝子の上に
縦横無盡に引いてゐる

美しい模様や

幾何圖の様な複雑な線を
畫いては消し、消しては畫く

無言の畫家、不言の數學者
汽車の窓に降り注ぐ雨

國境を越へて吾等は往かん ボーイスカウト發隊

一周年を迎へて

By Eiwa. Yamaguchi

ボーイスカウト結成一周年を迎へましたので、九月十日浦和市委員會室で浦和隊各隊の班長次長を網羅した反省會を行いました。そして今後に於けるスカウト運動の圓滑な發展を期すべく、皆の腹藏の無い意見の交換を行いました。この記事はその



際に於ける速記録より、摘出したものであります。

幸いにもこの粗述によりまして讀者の方々が我等のボーイスカウト運動に對する一端でも御理解下されば筆者の最も幸いとする所です。

座談會

六〇

○河合「皆んなボーイ・スカウトになつて非常に有益であつたとか又この樂しさはボーイ・スカウトでなければ味ふ事が出来なかつたと思つた事があるでしょう」

○榎山「ボーイ・スカウトは國際的で六月のラリーの時や米國のボーイ・スカウトの總長の追悼會に靈南坂の教會に行つた時など各國のスカウトと國境を越へた友情で互にスカウト運動について話し合つた。この様にスカウトには國境が無いと云ふ事、これはボーイ・スカウトのみの持つ喜びであると思ひます。この意味でもボーイ・スカウト世界聯盟へ一日も早く加盟して戴き度いと思ひます」

○古山「そうだ。僕もその點非常に嬉しいですよ。本當にボーイスカウト運動こそ世界平和樹立の尖端を行くものであると僕は確心しています」

○笹村「それだけの自覺とほこりが無ければ嘘だと思います」

○石井「さあ次はなにかね」

○名倉「自分は少し前まではエンヂ色のネツカチーフを付けるとなんだか寒氣がしたが近頃は充分なれて來

ました。僕はもと／＼氣が小さかつたから、まあとにかく班長となり班員こそ少ないが一班の長となり今日迄どうやらこうや

人 語

ボーイ・スカウト浦和隊指導員

和雄三	英泰久	口橋安	山高鈴	巍一和雄	合英正昭	河石井松
-----	-----	-----	-----	------	------	------

ボーイ・スカウト浦和隊第一隊員

古名高登吉	山倉窪坂岡	洋清利貞義	右吉男夫雄	(浦高一學年)	(同)	(同)	(同)	(同)
-------	-------	-------	-------	---------	-----	-----	-----	-----

ボーイ・スカウト浦和第二隊員

田阿叔森笹古砂	村佐山垣村川原	茂定英一博	樹夫彦彦雄巖泰	(浦商二學年)	(同二學年)	(同二學年)	(同二學年)	(同二學年)
---------	---------	-------	---------	---------	--------	--------	--------	--------

らやつて來てやつと統卒力が付いて來ました。これは僕がボーイ・スカウトになつたお蔭だと嬉しく思つています。山に海に

事でした。今日は大人人の意見を纏めて行く要領がわかり、その點も大變うれしく思つて居ります」

一つ天幕で班員と共に生活し、

色々計畫して班員の意見を聞きそれをまとめて行く、この事は簡単な様ですが仲々むづかしい

た。恰度名倉君と同じ様な氣が致します」

○田村「僕の班は皆小さい(新制中學一、二年)からその點やりよ

登坂「自分分は小さい時から人をリードする事が出來なかつたのですが、自分も班長となりその點大いに訓練されまし

いです」

○山口「さうだ。人の意見を纏める力が、スカウトになつて付く事は確かだ。將來大いに皆に働いてもらわんならんからな」

○古川「僕はボーイ・スカウトになつて何より楽しいのはキャンプ・ファイヤーだ(野營地で皆んなが夜營火を取り圍んで歌や劇をして、その日を楽しく暮すものでこの際に於ける行動は班單位を原則としてゐます)之が非常に面白い。又この結果人の前に立つ事がわりに平氣になります。この點内氣な僕には非常に良いと思います」

○淺見「そうだ。キャンプ・ファイヤーは僕等の獨占物だ。又僕はスカウトになつて常識が發達しました。結繩法、救助法、氣象觀測、測量等の訓練は案外日

常生活に役に立つ事が多いんです」

○森垣「僕は社會的訓練が出来る事がよいと思います。例へば今迄は市役所へ足を一步も踏み入れた事がなかつたのですが、今日の様に市役所へ時々出入りしたり又交通整理をしたりとにかくその方面に於ける社會的訓練が出来る事がよいと思つて居ります」

○高窪「ボーイ・スカウトになつて友達と旅行に行く機會が増えた事です。これははなはだ何んでもない話の様ですが、團結心をやしなふに最も良い方法だと思ひます。同じ釜で同じ天幕で一つ毛布に二人寢て、なんだ歌になつちやつた(爆笑) 相互扶助の精神を發揮して共に暮すこの様な親しみのある生活がどん

なに自分達の將來に益を與へる事でしよう」

○吉岡「それは事實だ。僕なんかいつもその事で考へさせられるよ。あの大自然の中にほうようされ邪念を去つて修養するあの神聖な姿、いつたい何を以てかこれに替えんだ」

山口「大分熱が上つて來たね」
○登坂「自分はスカウトは全然不良にならないと云ふ事がよいと思ひます。先づ吾々には學校とスカウト運動とこの二つで忙がしく不良になる暇などないんです」(大笑)

○河合「スカウトには三つの誓やおきてがあるからな。誓とおきては一ページにあります」

○河合「スカウトは餘暇を利用して修養するんだよ」

○笹村「自分はボーイ・スカウト

になつて活躍した事を申し述べたいと思います。或日曜日班員全部で仲仙道の電柱に貼つてあるポスター取りをやりやれと思つて居る時に突然サイレンが鳴りひびき火災をつげた。ふと見ると意外にも郵便局の附近であることがわかつたので、すぐ皆と一緒に現場にかけつけ日頃の訓練用のロープを張つて交通整理をやりました。これもはなはだ簡単な事です、スカート訓練をやつてゐればこそ、あれだけの行動が出来たと思ひます。誰もほめてはくれませんが、ただで内心非常に喜しかつた」

○河合「諸君の今後の班運営について何か」

○古山「今迄は氣のくしや／＼した時などは反省する事なんかでんで、出来なかつたのですが、

色々班長として苦勞してゐるせいか、かなり物解りがよくなつて來た様に思ひます。これもスカウト訓練の御蔭です」

○河合「ボーイ・スカウトになつて色々自分自身教育された事だらう」

○笹村「自分は痛切に感じてゐる事です。人間には敬けんな態度が必要であると思ひます。班長になつてからは指導者の立場になつて物事を考へる様になりました。今迄の様な我儘な振舞をしなくなりました」

○石井「勿論目上の人を尊敬する氣持が無ければいけないと思ふね。どうも若い時は目上の上げ足を取りたがつて困るよ」

○河合「では班員の指導について何か、田村君一つ」

○田村「自分の班では班員に成

るべく大人の悪い所を見せない様にしています。そうする事が不良化しない最善の方法と思ひます」

○名倉「異議あり。いや一寸反駁する様ですが(山口)そうだから、だよ意見を戦かわさなけりや、はりやいがないう。大分軌道へ乗つて來たな(大笑)僕の方ではその逆です。大人の悪い方面を大いに見せる事によつて自己反省をやつてもらふの方がかへつていゝんじやないかと思ひます」

○砂原「そのことについて意義があります。なる程今の方法は一應うなずけますが僕は反對します。何故ならば大人の悪い面を見てそれが悪いと自覺する事が果して小さな子供に出来るかどうかと疑問に思ひます。大體

惡にそまりやすいのが普通じやないんでしようか」

○山口「成程、君の意見も、もつともだ。しかし名倉君の説も又面白と思ふ。たゞ名倉君の場合には班長がよく班員をリードして指導してやらぬと砂原君の言つた様な結果になる。名倉君の班員は年令が大きくてよく自分と云ふものを見る目がある。善惡の識別が出来るんで、田村君の方は班員の年令が小さくてその結果君の様な方針を取らねばならぬと思ふのだ。つまりは年令の差によつて方法が違ふといふだけだと思ふね」

○鈴木「今の教育は昔と違ひ、子供の長所を生かし大いに伸ばしてやる。指導者はまあ子供の悪い方へ行かない様にかちを取つてやる。この様にあまり干渉し

ない方がよいと思ふのだ」

○古山「自分は班長には或程度威厳がなければいけないと思ひます。どうも弱い所を見せるとつけ上つて來ますね。しかしその反面又人の頭に立つものは慈愛心がなくてはこれ又班員がなつかない。まあその處の「こつ」がむづかしいですね」

○高窪「仲々むづかしいです。班員の中でも學校で級長なんかしている者は何時も學校で學友をリードしている關係が仲々指導がむづかしいですね。どんな事でも反對したいのですね。しかし今ではよくお互が理解し合つてゐるからうまくいつてゐますが」

○名倉「自分の所もやはり同じだその時は反對の理由をよくたゞし意見の違ふ點を皆が徹底的

に研究し合う。そして御互が了解するまでやりぬく。この方法がよいと思ひます」

○登坂「いすこも同じ秋の夕暮ですね」

○石井「とにかくどんな不愉快の事もキャンブに行き一つ天幕で寝ればそれつきり忘れるよ」

○登坂「本當です。先だつての三浦半島えの合同キャンブで一隊二隊のいがみ合ひは全然解消しました。近頃自分は一隊、二隊が非常に親密になつた事を心から嬉しく思つて居ります。(合同キャンブに参加したのは浦和第一隊、第二隊、本庄隊、忍隊の四隊でした)」

○名倉「僕の今の念願は浦和隊一隊、二隊だけでこの秋どこかへキャンブに行き度いんです」

○山口「たのもしいよ」

○笹村「自分の班では年令の差が大きいんです。年令の小さい者は良くなつくが大きいのは駄目で、班長に己人的感情で反對する事がある。しかし自分は反對するものは一應その意見を實踐してやる。勿論重要な事は別ですが、そしてその結果を見る事にしてゐます。成程自分のやり方は消極的の様に見えますがそしてその結果によつてどうか。君の計畫はまずいじやないか。となつ得させる。勿論自分も人間ですから間違つて居る事はありますがね(大笑)まあ皆責任觀念が強いから明るい班になると思ひます」

○榎山「自分の班は年令の差があまりないが、班長の云ふ事もよくきゝ班長を立てゝ呉れるので喜んで居ります」

○河合「仲々優秀だね」

○古川「自分の方では個人々々に責任を分擔してやつています例へば會計係、記録係、計畫係調査係等こうする事が責任觀念の涵養になると思ひます。隊長に出す班報告書などでも各自交替でやつて居ります」

○山口「では次に皆の希望を伺はう」

○淺見「來年からの合同野營地決定は自分達の意見を聞いてやつてもらいたいと思ひます」

○石井「しかしそれは勿論だがかにかく縣の合同野營なんだから意見の具申はするが君達の思ふ通りになるとは限らない。努力はする」

○吉岡「早く助成會を結成して戴き度いと思ひます」

○山口「しかし助成會が出来た

からといつて何のことも助成會にたよるといふ他力本願じや駄目だよ。どうも君達は助成會に對して頼ろうとしてゐるがそれでは助成會の意味は無いんだよ。自分の力でやれる事は何でもやる。自分の力ではどうしても出来ないといふ時に助成會の力を借りるんだね。經濟的問題も然りだ。吾々は獨力で立上るといふ信念が無くては駄目だ」

○古川「班別章や、隊別章等全部きちんと揃えてもらいたいと思ひます」

○河合「今の所まだユニフォームを揃へる事が許されてゐないからしばらく見合はしてゐるんだが、まあ適當にやつて置けばよいじやないか」

○名倉「考へるより生むがやすしで工風して自分で作るんです

ね。案外よいのが出来ます」

○岡岡「もつとボーイ・スカウトを一般人に認識してもらいたいものです」

○石井「よい事をしていれば自然と認めて呉れるよ」

○河合「皆さん大變御苦勞様でした。今後大いにやりませう」

自由とボーイスカウトについて

浦和市社會教育主事 屋代忠正

學校でも會社でも電車の中でも湯屋の中でも恐らく人の集るところに聞く言葉の一つ、それは自由と云ふことばである。自由とはと考へたら非常にむづかしいが或る外人がこうした説明をして居つたので御參考に供したい。『今朝はどうも體がだるい。起きたくない。休みたい。もつと寝ていたい。このことは自分個人の自由だ。休みたけりや休んでもかまわない……と思ふであらふが、然し自分が休ん

だらどんなに他の人達に迷惑をかけるであらう。それに市長は朝八時にきちんと執務してゐると信じてゐる』斯う考へてくると、少しくらいだるいとか休みたいとか云ふ自分だけの慾望の爲に他の人の自由をさまたげてはならない。即ち自己の自由の爲に他の大きな關係を持つ人達の自由を妨げてはならない。又道路を自動車で時速四十哩のスピードで走るとは自分の自由である。然し道路上には自轉車

も居れば子供も居る婦人も歩いてゐる。斯うした人達も皆道路を通行する自由を持つてゐるのに時速四十哩で走つたう斯うした人達が皆非常な迷惑を受けることになる。即ち自分一人の自由の爲に他の多くの人達の自由を奪つてはならない。自己の自由は他人の自由を思ふ時之を停止せねばならない』と。

此の言葉はボーイ・スカウトには最も大切な教訓であり又將來皆が國際的に役立つ人になる爲にこうした方面に充分な訓練を受けることが必要であると思ふ。皆で作つた規約、定め、掟はつまりそれをしつかり守ることによつて自分の自由と他の人の自由を認め合つて共に楽しく愉快に暮してゆける根本をなすものである。

寺公田

五

34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
841
842
843
844
845
846
847
848
849
850
851
852
853
854
855
856
857
858
859
860
861
862
863
864
865

戶種人價

他活國邦

[illegible]

卷之五

易取分三正續圖

【註】此詩見《詩經·小雅·采芣苢》。

原稿は二切返上

八
朵先
奇玉縣
市

奇玉縣立圖書館

水
イ、
ス
カ
ウ
ト

埼玉県

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675, 2676, 2677, 2678, 26

100

[illegible]

蘇東坡詩集

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

母王位傳

印前所刊

[illegible]

THE

我何所集聖布所

二十一日

正原

1997

神戶市東灘区石堂町三丁目

立圖書館

117

1990

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

2